

南相馬市内遺跡発掘調査報告書15

—令和2年度本発掘調査・試掘調査報告—

桜井D遺跡	(18次調査)	池ノ沢遺跡	(6次調査)
犬塚A遺跡	(1～3次調査)	萱浜原畑遺跡	(3次調査)
池ノ沢遺跡	(4次調査)	天梅B遺跡	(2次調査)
白幡前遺跡	(2次調査)	台遺跡	(2次調査)
糟内遺跡	(1次調査)	野馬土手	(中太田地区)
小高城跡	(6次調査)	橋本町A遺跡	(2次調査)
上渋佐原田遺跡	(6次調査)	陣ヶ崎A遺跡	(3次調査)
太田切遺跡	(1次調査)	南柚木字仲平後地区	
池ノ沢遺跡	(5次調査)	泉字町池地区	
大井花輪館跡	(1次調査)		

令和4年3月
南相馬市教育委員会

南相馬市内遺跡発掘調査報告書15

—令和2年度本発掘調査・試掘調査報告—

桜井D遺跡	(18次調査)	池ノ沢遺跡	(6次調査)
犬塚A遺跡	(1～3次調査)	萱浜原畑遺跡	(3次調査)
池ノ沢遺跡	(4次調査)	天梅B遺跡	(2次調査)
白幡前遺跡	(2次調査)	台遺跡	(2次調査)
糟内遺跡	(1次調査)	野馬土手	(中太田地区)
小高城跡	(6次調査)	橋本町A遺跡	(2次調査)
上渋佐原田遺跡	(6次調査)	陣ヶ崎A遺跡	(3次調査)
太田切遺跡	(1次調査)	南柚木字仲平後地区	
池ノ沢遺跡	(5次調査)	泉字町池地区	
大井花輪館跡	(1次調査)		

令和4年3月
南相馬市教育委員会

序 文

文化財は、我が国の長い歴史の中で生まれ、今日まで守り伝えられてきた国民共有の財産です。地域の歴史、伝統、文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化の向上・発展、そして地域のアイデンティティー形成の根幹をなすものです。

とりわけ、地中に埋もれている埋蔵文化財は、文字資料だけでは知ることができない先人の生活の様子や、文字がまだなかった時代の人々の思想や文化について、私たちに多くの情報を与えてくれます。

南相馬市内では、東日本大震災からの復旧・復興に伴う工事をはじめ、数多くの開発行為が行われており、長い歴史を経て保存されてきた埋蔵文化財を保護することが必要となっています。このような状況のなか、教育委員会では、開発が行われる前に、遺跡の範囲や性格などの資料を得る目的で、分布調査や試掘調査を実施いたしました。開発に際しては、これらの調査資料をもとに、関係の方々及び機関と遺跡の保存協議を行い、保存が困難な場合については、記録保存のための発掘調査を実施いたしました。

本書は、令和2年度に文化庁の補助金の交付を得て実施した南相馬市内遺跡発掘調査事業の調査成果をまとめた報告書です。今後、これら埋蔵文化財の調査成果が文化財の保護や地域研究ために活用されることを祈念します。

結びに、試掘調査の実施にご協力賜りました地権者の皆様、および関係機関の皆様、加えて震災復旧、復興にご支援、ご尽力頂きました皆様に、心から感謝申し上げます。

令和4年3月

南相馬市教育委員会

教育長 大和田 博行

例 言

1. 本書に記載した内容は、令和2年度に南相馬市教育委員会が実施した南相馬市内の埋蔵文化財試掘調査、発掘調査の成果報告である。
2. 試掘調査・発掘調査等にかかる経費は、文化庁補助金の交付を得ている。
3. 発掘調査ならびに報告書刊行は、以下の体制で実施した。
 - ・調査期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日
 - ・整理期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日
 - ・調査主体 南相馬市教育委員会

事 務 局 南相馬市教育委員会文化財課

令和2年度

教 育 長	大和田 博行	主任文化財主事	佐川 久
事 務 局 長	羽山 時夫	主 任 主 査	田中 稔(震災記録誌担当)
文 化 財 課 長	鈴木 悦子	主任文化財主事	佐藤 友之
課長補佐兼文化財係長	齋藤 直之	埋蔵文化財調査員	濱須 脩(会計年度任用職員)
課長補佐兼埋蔵文化財担当係長	川田 強	市史編纂編集員	茂木 千恵美(会計年度任用職員)
主任文化財主事	藤木 海	市史編纂編集員	中河 仁子(会計年度任用職員)

令和3年度

教 育 長	大和田 博行	文 化 財 主 事	藤木 海
事 務 局 長	午来 学	主任文化財主事	佐川 久
文 化 財 課 長	鈴木 悦子	主任文化財主事	佐藤 友之
課長補佐兼文化財係長	齋藤 直之	主 事	笠間 良之
課長補佐兼埋蔵文化財担当係長	川田 強	埋蔵文化財調査員	濱須 脩(会計年度任用職員)

整理補助員 泉田あずさ・岩崎美和子・寺島千尋・山本樹里・土屋和美

4. 発掘調査に際しては、次の機関及び個人から協力を得た。記して感謝の意を申し上げる。
尾下博道・尾下みお子・佐藤建設株式会社・株式会社国新・鎌田良博・株式会社ふくしまエナジー・株式会社齋藤・松下滋・株式会社紺野工務所・株式会社東北エステート・高島かよ子・丸三製紙株式会社・柚原静香・南相馬市建設部土木課

(順不同 敬称略)

5. 発掘調査、報告書作成にあたり、次の方々から指導・助言を得た。記して感謝申し上げる。
文化庁文化財部記念物課・福島県教育委員会・公益法人福島県文化振興財団・津田直子・岡部睦美・渡部紀・大栗行貴・安藤淳・佐藤啓

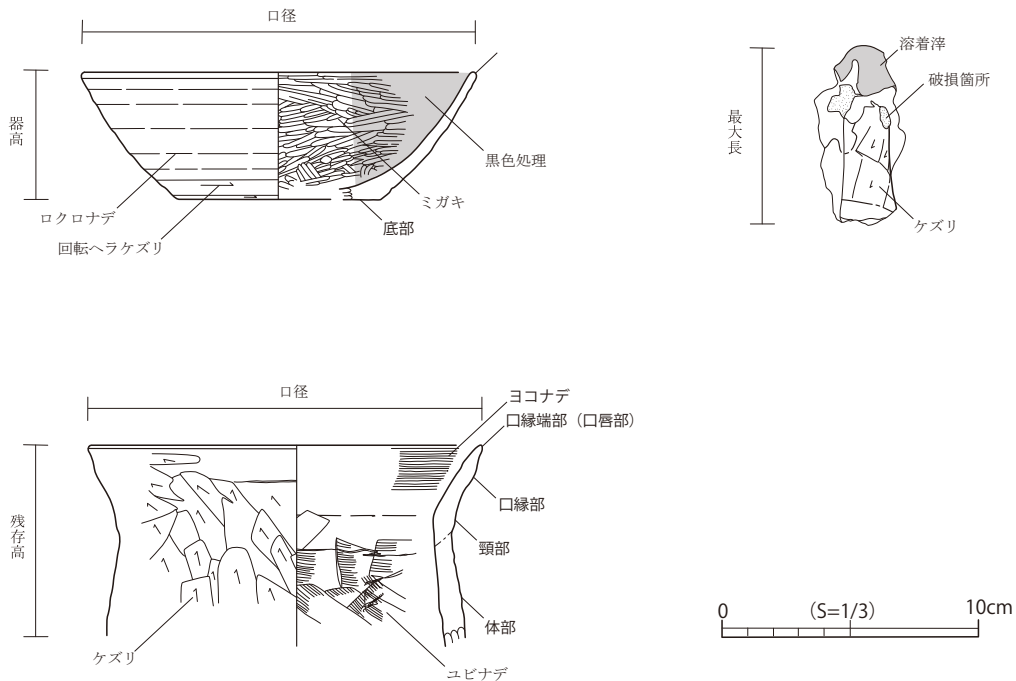
(順不同 敬称略)

6. 本報告書に掲載した遺構の文章ならびに挿図・写真図版は調査担当者が執筆・作成した。出土遺物は川田が執筆した。最終的な編集は各担当者と協議して濱須が行った。
7. 調査で得られた資料は、南相馬市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 図中の方位は真北方向を示し、水系レベルは海拔高度を示す。
2. 本文並びに図作成に使用した記号・略号は、以下の内容を示す。
T：トレンチ、SI：竪穴住居跡、SB：掘立柱建物跡、SD：溝跡、SK：土坑、P：ピット、SX：性格不明遺構、L：基本層位、*l*：遺構内層位
3. 調査区位置図作成に使用した□は調査区を示し、白塗りは遺構未確認調査区、黒塗りは遺構確認調査区を示す。

遺物凡例



目次

序文i
例言 iii
凡例 iv
挿図目次 vi
写真目次 vii
表目次viii
第Ⅰ章 南相馬市を取り巻く環境 1
第1節 地理的環境 1
第2節 歴史的環境 1
第Ⅱ章 令和2年度本発掘調査・試掘調査の概要 5
第Ⅲ章 調査成果 7
第1節 本発掘調査成果 7
第1項 桜井D遺跡(18次調査) 7
第2節 試掘調査成果 20
第1項 犬塚A遺跡(1～3次調査) 20
第2項 池ノ沢遺跡(4次調査) 23
第3項 白幡前遺跡(2次調査) 24
第4項 糟内遺跡(1次調査) 25
第5項 小高城跡(6次調査) 26
第6項 上渋佐原田遺跡(6次調査) 28
第7項 太田切遺跡(1次調査) 29
第8項 池ノ沢遺跡(5次調査) 31
第9項 大井花輪館跡(1次調査) 32
第10項 池ノ沢遺跡(6次調査) 34

第11項	萱浜原畑遺跡(3次調査)	36
第12項	天梅B遺跡(2次調査)	40
第13項	台遺跡(2次調査)	45
第14項	野馬土手(中太田地区)	48
第15項	橋本町A遺跡(2次調査)	49
第16項	陣ヶ崎A遺跡(3次調査)	50
第17項	南柚木字仲平後地区	51
第18項	泉字町池地区	52

挿図目次

図1	南相馬市位置図	1	図21	調査区位置図	24
図2	主要遺跡位置図	4	図22	糟内遺跡位置図	25
図3	調査遺跡位置図	6	図23	調査区位置図	25
図4	桜井D遺跡位置図	7	図24	小高城跡位置図	26
図5	調査区位置図	7	図25	調査区位置図	26
図6	SI1・SI2 遺構平面図	8	図26	上渋佐原田遺跡位置図	28
図7	SI1 旧段階・SI3 遺構平面図	9	図27	調査区位置図	28
図8	SI1 土層断面図	11	図28	太田切遺跡位置図	29
図9	SI1 遺構断面図	12	図29	調査区位置図	29
図10	SI1 旧段階遺構断面図	13	図30	SK1 遺構平面・断面図	29
図11	SI2・SI3 土層断面図	14	図31	SK1 出土遺物	29
図12	SI1 新段階出土遺物	15	図32	池ノ沢遺跡位置図	31
図13	SI1 旧段階出土遺物	16	図33	池ノ沢遺跡5次調査出土遺物	31
図14	SI1 旧段階出土遺物(鉄製品)	17	図34	調査区位置図	31
図15	犬塚A遺跡位置図	20	図35	大井花輪館跡位置図	32
図16	1次～3次調査区位置図	20	図36	調査区位置図	32
図17	犬塚A遺跡1次調査出土遺物	21	図37	1 T遺構平面図	32
図18	池ノ沢遺跡位置図	23	図38	池ノ沢遺跡位置図	34
図19	調査区位置図	23	図39	調査区位置図	34
図20	白幡前遺跡位置図	24	図40	池ノ沢遺跡5次調査出土遺物	35

図 41	萱浜原畑遺跡位置図	36	図 54	遺構配置図	46
図 42	調査区位置図	36	図 55	台遺跡 2 次調査出土遺物	47
図 43	遺構配置図	36	図 56	野馬土手位置図	48
図 44	5 T・13 T 調査区平面・断面図	37	図 57	調査区位置図	48
図 45	萱浜原畑遺跡 3 次調査出土遺物	38	図 58	橋本町 A 遺跡位置図	49
図 46	天梅 B 遺跡位置図	40	図 59	調査区位置図	49
図 47	調査区位置図	40	図 60	陣ヶ崎遺跡位置図	50
図 48	A 区調査区位置図	41	図 61	調査区位置図	50
図 49	B 区調査区位置図	41	図 62	南柚木字仲平後地区位置図	51
図 50	C 区調査区位置図	42	図 63	調査区位置図	51
図 51	天梅 B 遺跡 2 次調査出土遺物	43	図 64	泉字町池地区位置図	52
図 52	台遺跡位置図	45	図 65	調査区位置図	52
図 53	調査区位置図	45			

写真目次

写真 1	SI1 検出状況	18	写真 19	15 T 調査状況	22
写真 2	P6 検出状況	18	写真 20	16 T 調査状況	22
写真 3	P6 土層断面	18	写真 21	16 T 木炭焼成土坑検出状況	22
写真 4	P22 検出状況	18	写真 22	18 T 調査状況	22
写真 5	P7 検出状況	18	写真 23	24 T 木炭窯跡検出状況	22
写真 6	P9 検出状況	18	写真 24	33 T 調査状況	22
写真 7	P12 検出状況	18	写真 25	3 T 調査状況	23
写真 8	SI1 床面検出状況	18	写真 26	6 T 調査状況	23
写真 9	P23～P26 検出状況	19	写真 27	1 T 調査状況	24
写真 10	P27 検出状況	19	写真 28	2 T 調査状況	24
写真 11	P29 検出状況	19	写真 29	1 T 調査前状況	25
写真 12	P32・P33 検出状況	19	写真 30	1 T 調査状況	25
写真 13	SI1 完掘状況	19	写真 31	1 T 調査状況	27
写真 14	SI2 検出状況	19	写真 32	1 T 調査前状況	27
写真 15	SI2 完掘状況	19	写真 33	作業状況	27
写真 16	SI3 検出状況	19	写真 34	2 T 調査状況	27
写真 17	9 T 調査状況	22	写真 35	2 T 調査前状況	27
写真 18	9 T 木炭焼成土坑検出状況	22	写真 36	2 T ピット検出状況	27

写真 37	1 T 調査状況	28	写真 66	13 T 墳丘積土検出状況	39
写真 38	4 T 調査状況	28	写真 67	13 T 墳丘積土土層断面	39
写真 39	1 T 調査状況	30	写真 68	6 T 調査状況	44
写真 40	2 T 調査状況	30	写真 69	6 T 木炭焼成土坑検出状況	44
写真 41	3 T 調査状況	30	写真 70	11 T 調査状況	44
写真 42	4 T 調査状況	30	写真 71	11 T 木炭焼成土坑検出状況	44
写真 43	4 T SK1 検出状況	30	写真 72	12 T 調査状況	44
写真 44	4 T SK1 遺構断面	30	写真 73	12 T SK3 調査状況	44
写真 45	5 T 調査状況	30	写真 74	18 T 調査状況	44
写真 46	6 T 調査状況	30	写真 75	18 T 木炭焼成土坑検出状況	44
写真 47	2 T 調査状況	31	写真 76	3 T 調査状況	47
写真 48	調査前状況	33	写真 77	3 T 掘立柱建物跡検出状況	47
写真 49	1 T 調査状況	33	写真 78	3 T 柱穴検出状況	47
写真 50	1 T ピット検出状況①	33	写真 79	4 T ピット検出状況	47
写真 51	1 T ピット検出状況②	33	写真 80	4 T SI1 検出状況	47
写真 52	2 T 調査状況①	33	写真 81	9 T 調査状況	47
写真 53	2 T 調査状況②	33	写真 82	9 T SI2 検出状況	47
写真 54	2 T 調査状況	35	写真 83	1 T 調査状況	48
写真 55	4 T 調査状況	35	写真 84	2 T 調査状況	48
写真 56	9 T 調査状況	35	写真 85	1 T 調査前状況	49
写真 57	12 T 調査状況	35	写真 86	1 T 調査状況	49
写真 58	14 T 調査状況	35	写真 87	1 T 調査状況	50
写真 59	23 T 調査状況	35	写真 88	2 T 調査状況	50
写真 60	1 T 調査状況	39	写真 89	2 T 調査状況	51
写真 61	4 T 調査状況	39	写真 90	6 T 調査状況	51
写真 62	5 T 調査状況	39	写真 91	1 T 調査状況	52
写真 63	5 T SI1 検出状況	39	写真 92	2 T 調査状況	52
写真 64	5 T SI1 土層断面	39	写真 93	出土遺物写真 1	53
写真 65	13 T 調査状況	39	写真 94	出土遺物写真 2	54

表目次

表 1	南相馬市主要遺跡一覧表	3	表 2	出土遺物観察表	55
-----	-------------	---	-----	---------	----

第I章 南相馬市を取り巻く環境

第1節 地理的環境

福島県南相馬市は、福島県太平洋岸の中央部やや北寄りに位置する。行政境としては、北側は相馬市、南側は双葉郡浪江町、西側は相馬郡飯舘村と接する。

浜通り地方の地質は、阿武隈高地東縁部と浜通り低地帯、双葉断層(岩沼―久之浜構造線)により明瞭に区分される。

市内の地形を見ると、西部域に南北方向に連なる阿武隈高地が縦走し、そこから太平洋に向



図1 南相馬市位置図

かって派生する低丘陵と丘陵間に開析された沖積平野で構成される。阿武隈高地にかかる西側の丘陵の標高は100m～150mを測り、海岸部に近い市内中心付近では標高50m～60m前後、海岸部では20m～30mとなる。

第2節 歴史的環境

南相馬市内に所在する旧石器時代の遺跡としては、大谷地遺跡(1)・畦原A遺跡(2)・畦原C遺跡(3)・熊下遺跡(4)・袖原A遺跡(5)・陣ヶ崎A遺跡(6)・南町遺跡(7)・橋本町A遺跡(8)・橋本町B遺跡(9)・桜井遺跡(10)、荻原遺跡(11)の11遺跡があり、後期旧石器時代のナイフ形石器や彫刻刀型石器を出土している。

縄文時代の遺跡では、宮後A遺跡(12)・宮後B遺跡(13)から大木7a～10式、八幡林遺跡(14)では早期から晩期までの土器が出土する。八重米坂A遺跡(15)・羽山B遺跡(16)・畦原F遺跡(17)では早期から前期の遺構・遺物が確認されており、赤沼遺跡(18)・犬這遺跡(19)でも前期の土器が出土している。中期では阿武隈高地裾部にある前田遺跡(20)や、新田川北岸の台地上にある高松遺跡(21)で大木7b～10式、植松A遺跡(22)で大木10式期の住居跡が調査されている。

太田川流域の上ノ内遺跡(23)・町川原遺跡(24)では後期の綱取式が出土し、片倉の羽山遺跡(25)では晩期の大洞C1～A式、高見町A遺跡(26)では晩期中葉の土器と石囲炉をもつ住居跡が調査されている。宮田貝塚(27)・加賀後貝塚(28)・片草貝塚(29)は内陸部に位置する貝塚を伴う前期前半の集落である。前期後半以降には海岸部にある浦尻貝塚(30)や角部内南台貝塚(31)が代表的な貝塚として知られている。

弥生時代としては天神沢遺跡(32)や桜井遺跡(33)が著名であるが、近年では桜井古墳(34)や川内迫B遺跡群F地点(35)で中期中葉の椀形冢式土器が出土し、高見町A遺跡からは終末期の十王台式土器が出土している。

古墳時代では、古墳時代前期に新田川南岸の河岸段丘上に桜井古墳が築造され、周辺の古墳と共に桜井古墳群上洪佐支群(36)・同高見町支群(37)を構成する。真野川流域の柚原古墳群(38)では周溝内から塩釜式土器が出土し、高見町A遺跡・桜井B遺跡(39)・東広畑B遺跡(40)でも塩釜式土器が出土している。前方後円墳である上ノ内前田古墳(41)は中期の可能性があり、真野古墳群(42)・横手古墳群(43)は円筒埴輪を伴うことから、その造営開始は中期末まで遡る可能性がある。この時期の集落は前屋敷遺跡(44)で南小泉式土器を出土する竪穴住居跡が調査されている。後期になると桜井古墳群高見町支群・真野古墳群・横手古墳群などで本格的に古墳群の造営が開始される。真野古墳群は100基を超える東北地方を代表する後期群集墳である。

後期の集落としては大六天遺跡(45)・迎畑遺跡(46)・地藏堂B遺跡(47)、片草古墳群一里段支群(48)・中村平遺跡(49)で後期から終末期の土器が出土する。終末期の横穴墓のうち大窪横穴墓群(50)・羽山横穴墓群(51)、浪岩横穴墓群(52)は玄室内部に装飾壁画が見られ、真野川流域の中谷地横穴墓群は(53)複室構造の玄室を採用している。

奈良・平安時代の遺跡では行方郡家とされる泉官衙遺跡(泉廃寺跡)(54)があり、郡庁院・正倉院・館院などが確認されている。横手廃寺跡(55)・真野古城跡(56)・植松廃寺跡(57)・入道迫瓦窯跡(58)、京塚沢瓦窯跡(59)などは瓦を出土する遺跡であり、寺院や瓦を焼成した遺跡と考えられる。市内の低丘陵では製鉄に関連した遺跡が多数確認されており、金沢製鉄遺跡群(60)、蛭沢遺跡(61)・川内迫B遺跡群(62)・出口遺跡(63)・大塚遺跡(64)・横大道遺跡(65)・館越遺跡(66)などで調査が進展している。集落遺跡では広畑遺跡(67)を始めとして市内各地で確認されているが、集落の具体的な構造を知るまでには至っていない。広畑遺跡からは「寺」「厨」などの墨書土器とともに灰釉陶器が出土し、隣接する泉官衙遺跡との関連が示唆される。大六天遺跡から出土した「小毅殿千之」と刻書された須恵器は、行方軍団との関わりが。町川原遺跡でも墨書土器が出土しているが、広畑遺跡のような公的機関の施設名を記したものは見られず、異なった性格をもつ集落と考えられる。

主な中世の遺跡としては城館跡が挙げられ、下総国から下向した相馬氏の最初の居城となる別所館跡(68 現太田神社)や牛越城跡(69)は、相馬氏下向以前の城館跡として良く知られている。小高城跡(70 現小高神社)は相馬氏の居城として機能した中世城館である。本城跡は嘉暦元年から慶長十六年に相馬利胤が中村城を築城するまでの約290年間重要な役割を占めた。その他では泉平館跡(71)・泉館跡(72)・下北高平館跡(73)で調査が行われている。

近世の遺構は、寛文六年以降に築かれた野馬土手と、その出入口となる木戸跡や相馬氏の居城として再整備された牛越城跡がある。野馬土手は、雲雀ヶ原扇状地を囲む、東西約10km×南北約2.6kmの範囲に築かれており、土手内外の出入り口となった羽山岳の木戸跡(74)は南相馬市指定史跡に指定され、良好な形で保存されている。近世後半から近代にかけては中村藩の大規模なたたらである馬場鉄山(75)や正福寺跡(76)、法幢寺跡(77)で近世墓域の調査が行われている。

No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	八幡林遺跡	散布地	旧石器・縄文	41	上ノ内前田古墳	古墳	古墳
2	畦原A遺跡	散布地	旧石器	42	真野古墳群	古墳	古墳
3	畦原C遺跡	散布地	旧石器	43	横手古墳群	古墳	古墳
4	熊下遺跡	散布地	旧石器	44	前屋敷遺跡	集落・散布地	縄文～古墳
5	袖原A遺跡	散布地	旧石器	45	大六天遺跡	集落・散布地	古墳～平安
6	陣ヶ崎A遺跡	散布地	旧石器	46	迎畑遺跡	集落・散布地	古墳
7	南町遺跡	散布地	旧石器	47	地藏堂B遺跡	集落・散布地	古墳
8	橋本町A遺跡	散布地	旧石器	48	片草古墳群 一里段支群	古墳・集落	古墳～平安
9	橋本町B遺跡	散布地	旧石器	49	中村平遺跡	集落・散布地	古墳
10	桜井遺跡	散布地・集落	旧石器・縄文・弥生 古墳・奈良・平安	50	大窪横穴墓群	横穴墓	古墳
11	荻原遺跡	散布地・製鉄跡	旧石器・奈良・平安	51	羽山横穴墓群	横穴墓	古墳
12	宮後A遺跡	集落・散布地	縄文	52	浪岩横穴墓群	横穴墓	古墳
13	宮後B遺跡	集落・散布地	縄文	53	中谷地横穴墓群	横穴墓	古墳
14	八幡林遺跡	散布地	旧石器・縄文	54	泉官衙遺跡	官衙	奈良・平安
15	八重米坂A遺跡	集落・散布地	縄文	55	横手廃寺跡	寺院	平安
16	羽山B遺跡	集落・散布地	縄文	56	真野古城跡	城館	不明
17	畦原F遺跡	住落・散布地	縄文	57	植松廃寺跡	寺院	奈良・平安
18	赤沼遺跡	集落・散布地	縄文	58	入道廻瓦窯跡	窯跡	奈良・平安
19	犬這遺跡	散布地	縄文	59	京塚沢瓦窯跡	窯跡・製鉄	奈良・平安
20	前田遺跡	散布地	縄文	60	金沢製鉄遺跡群	製鉄・散布地	弥生・奈良・平安
21	高松遺跡	散布地	縄文	61	蛭沢遺跡	製鉄	奈良・平安
22	植松A遺跡	集落・散布地	縄文	62	川内廻B遺跡群	製鉄・散布地	弥生・奈良・平安
23	上ノ内遺跡	散布地	縄文	63	出口遺跡	製鉄	平安
24	町川原遺跡	集落・散布地	縄文	64	大塚遺跡	製鉄	平安
25	羽山遺跡	集落・散布地	縄文	65	横大道遺跡	製鉄	奈良・平安
26	高見町A遺跡	集落・散布地	縄文～平安	66	館腰遺跡	製鉄	平安
27	宮田貝塚	貝塚・散布地	縄文	67	広畑遺跡	集落・散布地	奈良・平安
28	加賀後貝塚	貝塚・散布地	縄文	68	別所館跡	城館	中世
29	片草貝塚	貝塚・散布地	縄文	69	牛越城跡	城館	中世
30	浦尻貝塚	貝塚・散布地	縄文・平安	70	小高城跡	城館	中世
31	角部内南台貝塚	貝塚・散布地	縄文	71	泉平館跡	城館・散布地	中世
32	天神沢遺跡	散布地	弥生	72	泉館跡	城館	中世
33	桜井遺跡	散布地・集落	旧石器・縄文・弥生・古 墳・奈良・平安	73	下北高平館跡	城館	中世
34	桜井古墳	古墳	古墳	74	羽山岳の木戸跡	その他	近世
35	川内廻B遺跡群	製鉄・散布地	弥生・奈良・平安	75	馬場遺跡	製鉄	近世
36	桜井古墳群 上渋佐支群	古墳・散布地	縄文～平安	76	正福寺跡	寺院	近世
37	桜井古墳群 高見町支群	古墳・集落	縄文～古墳	77	法幢寺跡	寺院・集落	奈良・平安・近世
38	袖原古墳群	古墳	古墳				
39	桜井B遺跡	集落・散布地	弥生・平安				
40	東広畑遺跡	集落・散布地	弥生～平安				

表1 南相馬市主要遺跡一覧表

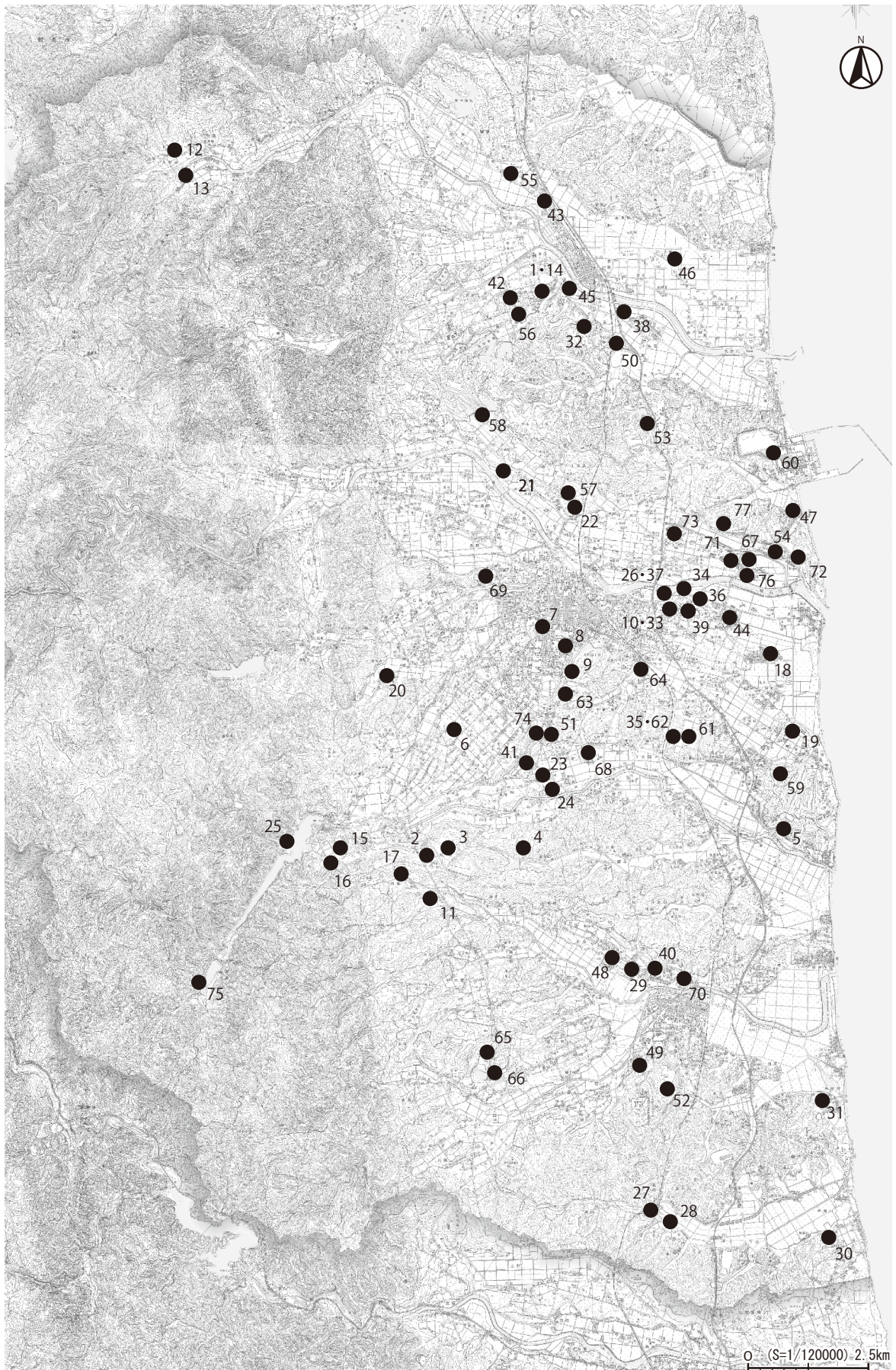


図2 主要遺跡位置図

第Ⅱ章 令和2年度本発掘調査・試掘調査の概要

令和2年度に市内遺跡発掘調査で実施した調査は、記録保存を目的とした本調査ならびに市内における各種開発計画に対する保存協議の資料を得るために行った。

記録保存目的の調査は、桜井D遺跡内における個人住宅建設に伴う調査の1件である。桜井D遺跡の本調査は、建物建設範囲である74.9㎡の範囲で調査が実施された。

令和2年度の最終的な実績では、周知の埋蔵文化財包蔵地内において17遺跡20地点にて行った。試掘調査を開発目的別に見ると、個人住宅建設関連が3件、集合住宅建設関連が1件、農地造成関連が1件、土砂採取計画関連が7件、太陽光発電施設建設関連が4件、市道改良関連が1件、その他の民間開発関連が3件を数える。

個人住宅建設関連は、白幡前遺跡、大井花輪館跡、陣ヶ崎A遺跡である。集合住宅関連は、上渋佐原田遺跡である。農地造成関連は台遺跡である。土砂採取計画関連は、犬塚A遺跡(3地点)、池ノ沢遺跡(3地点)、天梅B遺跡である。太陽光発電施設建設関連は、糟内遺跡、小高城跡、太田切遺跡、南柚木字仲平後地区である。市道改良関連は、泉字町池地区である。民間開発関連は、萱浜原畑遺跡、野馬土手太田地区、橋本町A遺跡である。

以上の調査については、事前に開発予定地における試掘調査の依頼を受けて調査を実施した。

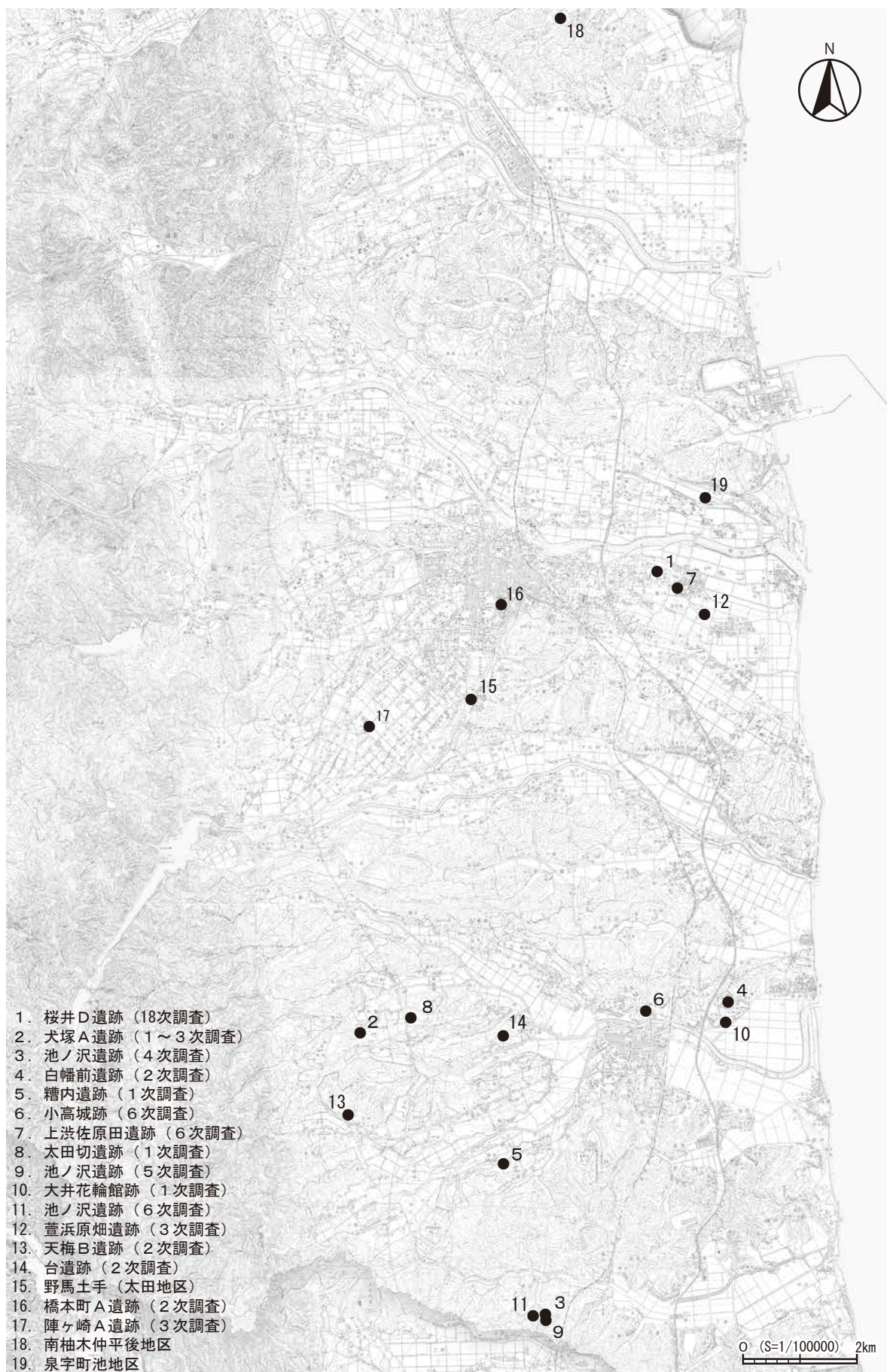


図3 調査遺跡位置図

第三章 調査成果

第1節 本発掘調査成果

第1項 桜井D遺跡(18次調査)

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区上渋佐字原田地内
3. 調査期間 令和2年10月22日
～11月30日
4. 調査対象面積 464.98㎡
5. 調査面積 74.9㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 開発に伴う事前の試掘調査では、開発予定地内に幅2m×長さ10mの調査区

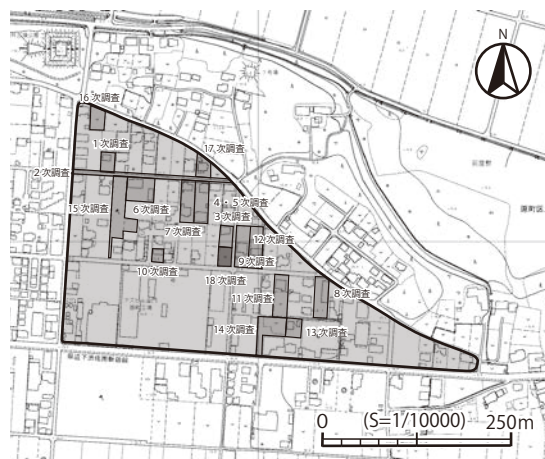


図4 桜井D遺跡位置図

を1箇所を設定して、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査では、現地表面から約30cmの深さで遺構確認面である黄褐色土層に到達し、遺構及び土師器の出土が確認された。確認された遺構は、住宅建築工事による破壊を免れることができないことから、住宅建築範囲において、引き続き記録保存のための本発掘調査を実施した。

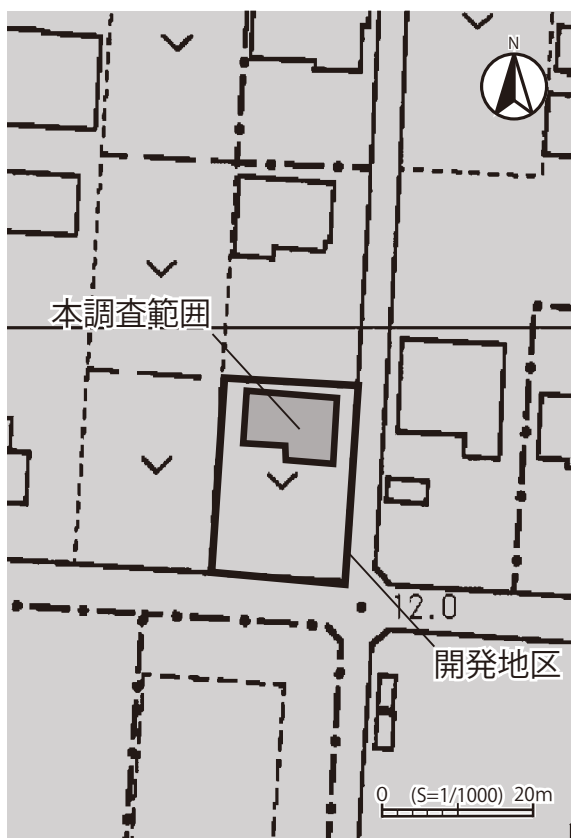


図5 調査区位置図

て、引き続き記録保存のための本発掘調査を実施した。

建築範囲内での表土掘削を終えた段階で、調査区の北壁から中央にかけての範囲に1号竪穴住居跡(SI1)、東壁南部に2号竪穴住居跡(SI2)が確認された。

・1号竪穴住居跡(SI1)

現地表面から約30cmの深さでSI1が確認され、基盤層である黄褐色土層を掘り込んでいる状況が確認された。確認された遺構の範囲は、東辺と西辺の間隔から約7.5m四方の竪穴住居跡と推定される。

SI1の住居内施設は、ピット8基(P1～P6、P21・P22)、SI1の壁面に沿う形でピット13基(P7～P9、P11～P20)を検出した。

床面で確認されたP1～P6、P21・P22の内、規模が大きく深いP1・P6・P21の3基をSI1の支柱

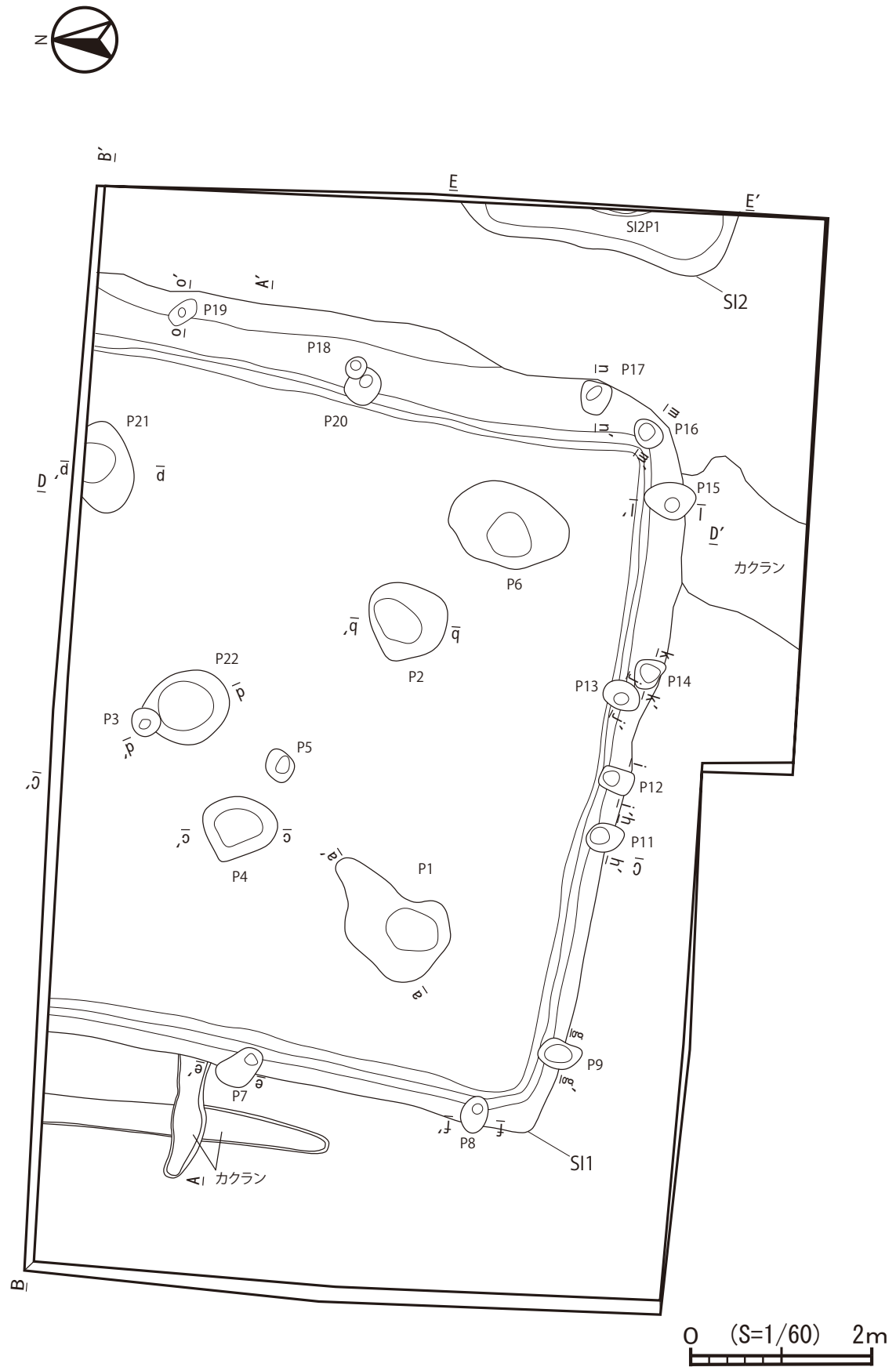


図6 SI1・SI2 遺構平面図



図7 S11旧段階・S13遺構平面図

穴と判断した。P1とP6の間隔は約4.2m、P6とP21の間隔も同様に約4.2mであり、深さは3基ともに約60cmを測る。P6の対角線上に存在すると考えられる支柱穴は、調査区の範囲外であるため確認できなかった。

P7～P20は、いずれもSI1の壁際から検出したピットであり、壁柱穴と判断した。南辺の中央部に集中しているP11～P14の間隔が極端に狭まっている状況が確認できたため、SI1の入り口を形成していた可能性が考えられる。

また、床面の検出でカマドは確認されなかったことから、SI1の調査区外となっている北辺に敷設されていると推測する。

支柱穴・壁柱穴以外の遺構では、直径40cm～50cmのピット3基(P2・P4・P22)、直径約20cmのピット2基(P3・P5)を検出した。P2～4・P22は深さ約20cm、P5は深さ40cmを測る。

・1号竪穴住居跡(SI1)旧段階

SI1内の貼床を除去したところ、新たにピット12基(P23～P33)、竪穴住居跡1軒(SI3)を検出した。確認されたピットは粗掘りと考えられる層の上面で検出している。このことから、貼床の下から確認されたピット群は、建て替え以前につくられたSI1旧段階の住居内施設であると判断した。

また、旧段階での貼床面は確認できなかったことから、建て替えの際の掘削で旧段階の貼床は掘削されたと考えられる。

確認されたP23～P33の内、規模が大きく深いP27・P29・P31を支柱穴と判断した。P29とP31の間隔は約2.7m、P27とP31の間隔は約3.0mである。深さは3基ともに約40cmを測る。P31の対角線上に存在すると考えられる支柱穴は、調査区の範囲外であるため確認できなかった。また、新段階とは異なり、壁柱穴は確認できず、旧段階の支柱穴と新段階の支柱穴を比較して、新段階支柱穴の間隔が広がっていることが確認できる。

SI1の南壁付近で確認されたP23とP26は規模・深さ共にほぼ同様の遺構であり東西で並んでいることからSI1旧段階の入り口部分に当たると推測する。

P28は、SI1の北西部で検出した。検出した他の旧段階の遺構から離れた位置で検出しており、形状も他のピットと異なる。遺構内からは、鉄製の紡錘車とカスガイが出土している。

P32とP33の検出時は、全体的に焼土・炭化物・黄褐色土ブロックを多量に含んだ暗褐色土(1層)が検出している。切りあっているP32・P33の上面を、上記の暗褐色土層で覆っている堆積状況が確認できる。確認された1層の暗褐色土層は明らかに人為的な埋土であり、SI1旧段階の遺構であるP32・P33を建て替えの際に埋めていると推測する。また、P32・P33に、多量の焼土ブロックが含まれていることから、SI1旧段階のカマドであった可能性が高い。

また、旧段階のSI1を調査していく中で、基盤層である黄褐色土層上に被熱硬化した焼土跡が検出した。新段階の建て替えの際の掘削の影響か歪な不定形で確認されており、本来の形状は不明である。上記のように鉄滓が出土しているため、鍛冶炉の可能性も考えられる。検出状況から、旧段階以前の遺構と考えられる。

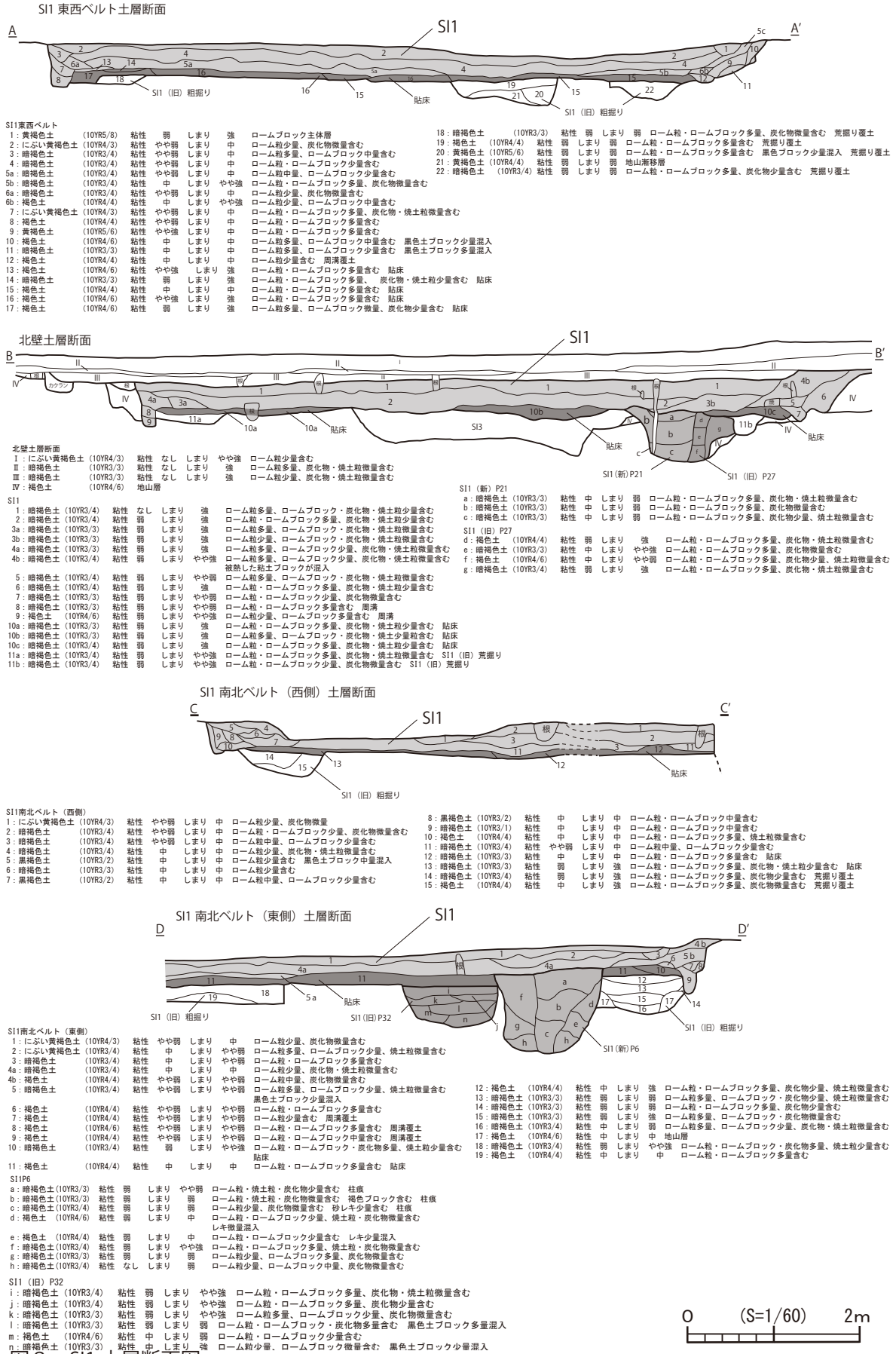
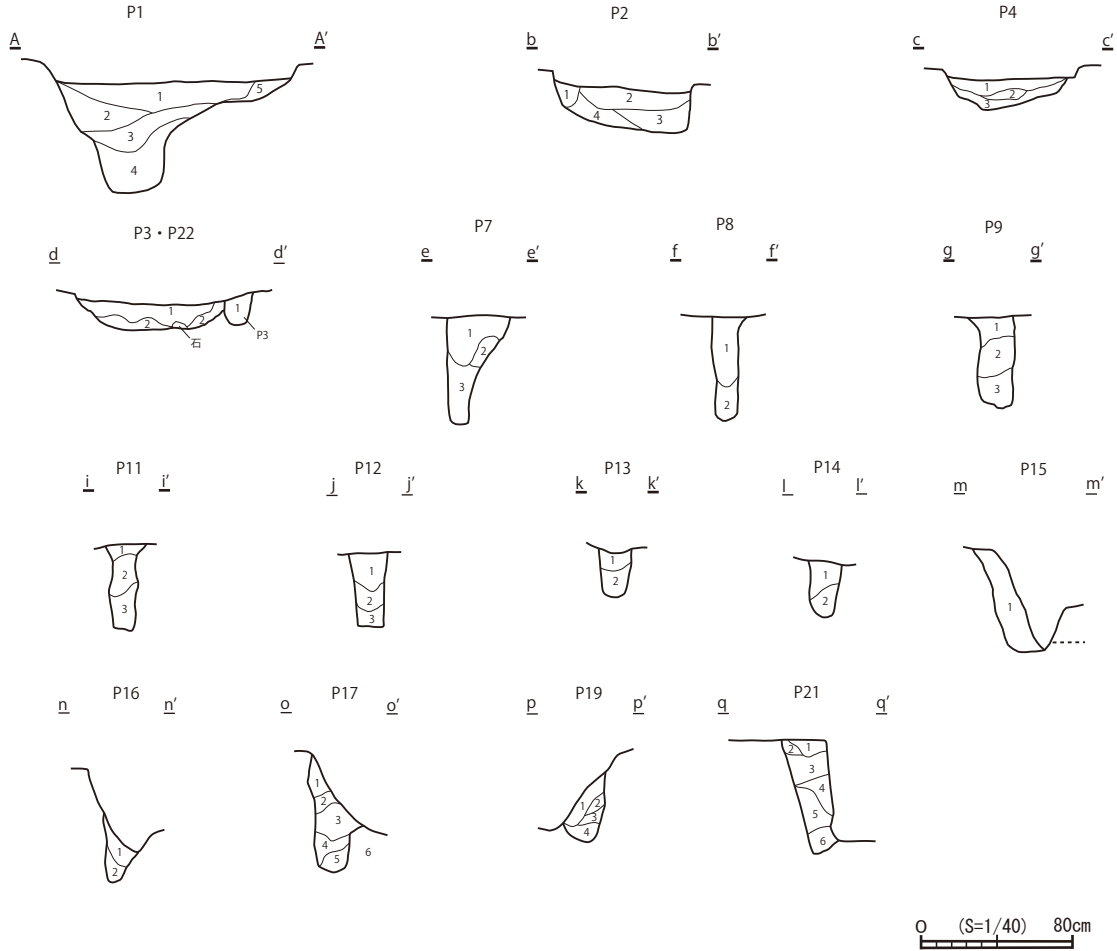


図8 S11土層断面図

第三章 調査成果



- P1
 1: 暗褐色土 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒・ロームブロックを少量含む。
 2: 暗褐色土 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒を少量含む。
 3: 暗褐色土 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒・ロームブロックを少量含む。
 4: 暗褐色土 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒・ロームブロックを少量含む。
 5: 褐色土 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒・ロームブロックを、暗褐色土を少量含む。
- P2
 1: 褐色土 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
 2: 褐色土 粘性 弱 しまり 弱 R1より大型のロームブロックを少量含む。
 3: 褐色土 粘性 中 しまり 中 ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
 4: 黄褐色土 粘性 中 しまり 中 ロームブロック主体層。
- S11P4
 1: 暗褐色土 (10YR3/2) 粘性 弱 しまり 中 ローム粒多量、ロームブロック、炭化物・焼土粒少量含む
 2: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒・炭化物少量、ロームブロック、焼土粒多量含む
 3: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 中 しまり 強 ローム粒・炭化物・焼土粒少量、ロームブロック多量含む
- P7
 1: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 なし しまり やや強 ローム粒多量、ロームブロック少量、炭化物・焼土粒微量含む
 2: 褐色土 (10YR4/6) 粘性 弱 しまり 強 ロームブロック多量含む、壁面の剥落と考えられる
 3: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 なし しまり 弱 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物微量含む
- P8
 1: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 弱 しまり やや強 ローム粒・ロームブロック少量、炭化物・焼土粒微量含む
 2: 褐色土 (10YR4/6) 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒・ロームブロック多量含む
- S11P9
 1: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 なし しまり 弱 ローム粒多量、ロームブロック少量、炭化物・焼土粒微量含む
 2: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 弱 しまり 強 ローム粒多量、ロームブロック少量、炭化物少量含む
 3: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 なし しまり やや弱 ロームブロック多量、炭化物少量含む
- P11
 1: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 弱 しまり 強 ローム粒少量、ロームブロック多量、炭化物少量含む
 2: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 なし しまり やや弱 ローム粒・ロームブロック多量、焼土粒・炭化物微量含む
 3: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒・ロームブロック・炭化物多量含む
- P12
 1: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物微量含む
 2: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 なし しまり 弱 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物微量含む
 3: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 中 しまり 弱 ローム粒・炭化物多量、ロームブロック少量含む

- P13
 1: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒多量、ロームブロック・炭化物少量含む
 2: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 中 しまり 弱 ローム粒・ロームブロック・炭化物少量含む
- P14
 1: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 弱 しまり やや強 ローム粒多量、炭化物少量、ロームブロック・焼土粒微量含む
 2: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 やや弱 しまり やや弱 ローム粒・ロームブロック少量、炭化物・焼土粒微量含む
- P5
 1: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 弱 しまり やや弱 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物少量含む
- P16
 1: 褐色土 (10YR4/4) 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒多量、ロームブロック少量、炭化物微量含む
 2: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒多量、ロームブロック・炭化物少量含む
- P17
 1: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 弱 しまり やや弱 ローム粒多量、ロームブロック少量、炭化物微量含む
 2: 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性 なし しまり 弱 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物少量含む
 3: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 弱 しまり やや弱 ローム粒少量、ロームブロック多量含む
 4: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 中 しまり やや強 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物微量含む
 5: 褐色土 (10YR4/6) 粘性 中 しまり 強 ローム粒少量、ロームブロック多量、炭化物微量含む
 6: 黄褐色土 (10YR5/6) 粘性 弱 しまり 強 地山
- P19
 1: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 なし しまり 強 ローム粒多量、ロームブロック・炭化物少量、焼土粒微量含む
 2: 暗褐色土 (10YR4/6) 粘性 弱 しまり やや弱 ローム粒多量、ロームブロック・炭化物少量含む
 3: 褐色土 (10YR4/6) 粘性 中 しまり 弱 ロームブロック多量含む、壁の崩落の可能性
 4: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 弱 しまり 強 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物微量含む
- P21
 1: 褐色土 (10YR4/6) 粘性 弱 しまり やや弱 ローム粒・炭化物少量、ロームブロック多量含む
 2: 褐色土 (10YR4/6) 粘性 弱 しまり やや弱 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物微量含む
 3: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒少量、ロームブロック多量、炭化物微量含む
 4: 褐色土 (10YR4/6) 粘性 弱 しまり やや弱 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物・焼土粒微量含む
 5: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 中 しまり 弱 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物少量、焼土粒微量含む
 6: 褐色土 (10YR4/4) 粘性 中 しまり やや弱 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物少量、焼土粒微量含む
- P22
 1: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 弱 しまり 強 ローム粒・ロームブロック・炭化物・焼土粒多量含む
 2: 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性 弱 しまり 強 ローム粒多量、ロームブロック・炭化物・焼土粒少量含む
 3: 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性 弱 しまり 弱 ローム粒・ロームブロック少量、炭化物・焼土粒微量含む

図9 S11 遺構断面図

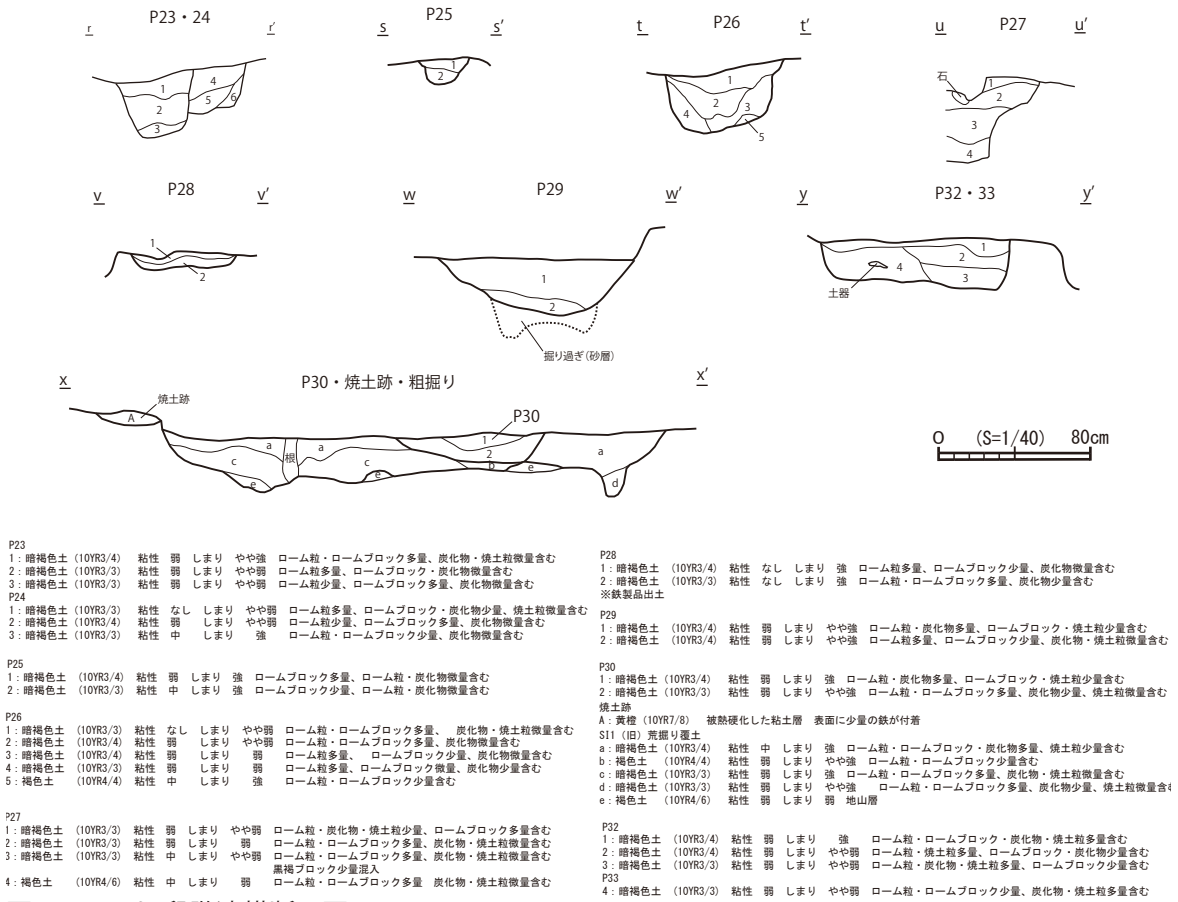


図10 SI1旧段階遺構断面図

SI1の出土土器は、出土状況から新段階の床面直上ならびにピット内(図12-1~7)、新段階の覆土(同図8~19)、旧段階ならびに住居構築時の粗掘段階(図13-1~8)に大別できる。

新段階の床面直上等出土土器には、体部下半回転ヘラケズリを施すロクロ成形の坏(図12-1~3)が主体をなす。同図5は底部に丸みを持つ非ロクロ成形の坏である。同図4は全体的に不整形で底面に糸切痕を残す。底部はやや丸底である。口縁外面はミガキを施し、一部黒色処理もあることから、両黒の土師器を意識したものとみられる。同図6も小型で両面に黒色処理を施し、外面にミガキを施す。同図7は甕の胴部破片だが、焼成後線刻がみられる。

同図8~19は新段階覆土の出土土器である。8は口縁が緩やかに外反する甕、9は内外面にミガキが施される小型の坏である。口縁の一部は黒色処理とみられ、同図6同様、両黒の土師器を意識したものとみられる。10~12はロクロ成形の坏で底面は回転ヘラケズリが認められる。14はロクロ成形の高台坏である。15は甕の底部である。16は両黒の蓋であり、内外面にミガキが施される。17・18は墨書土器である。17は「千万」と記されている。19は須恵器の瓶類底部である。

図13-1~8は床面下の旧段階に相当する出土土器である。1はロクロ成形の小型坏で体部下半~底部は回転ヘラケズリ調整である。2は口縁が緩く外反する甕である。3は小型の甕で体部外面に輪積痕を複数段残し、粗いヘラナデが施される。4・5・8は甕の底部である。6・7は須

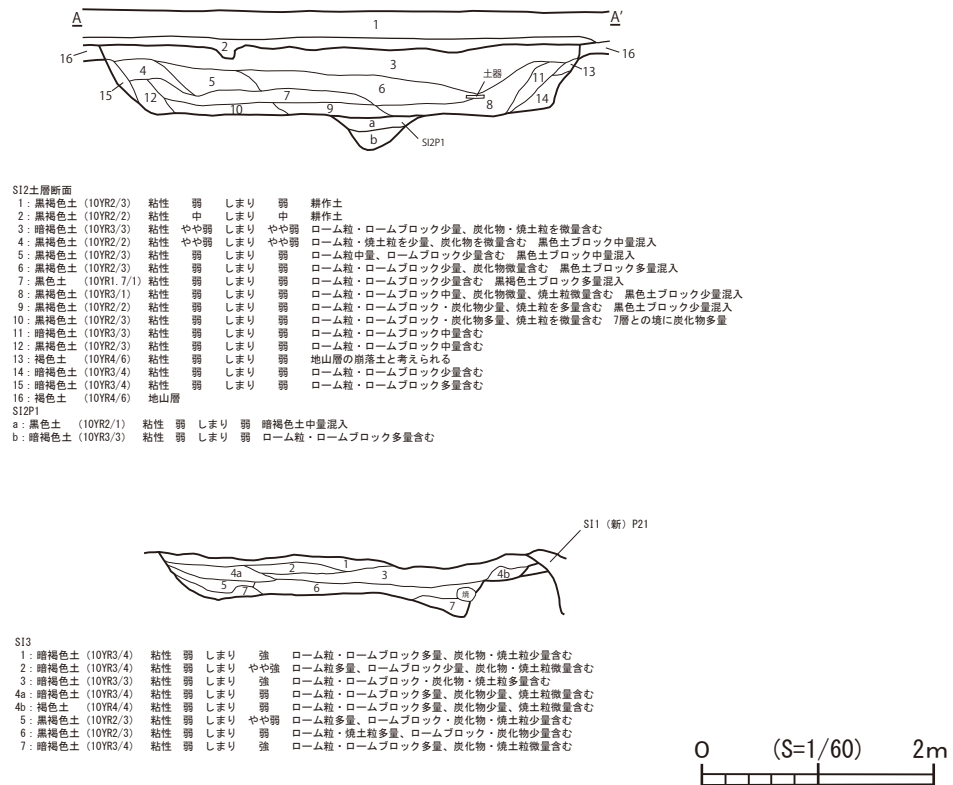


図 11 SI2・SI3 土層断面図

恵器甕の破片である。

SI1からは比較的多くの鉄製品が出土している。図14-1・2は旧段階に伴うP28出土である。1は全長22.0cmを測る軸付紡錘車である。軸部上部を欠損している。円盤部は径4.4cm、厚さ0.4cmを測る。軸部は円盤部より下部で6.3cm、上部で15.2cm以上を測る。軸部径は0.4～0.5cmである。2は「カスガイ」とみられる。最大長5.7cm、最大幅2.8cm、厚さ0.4cmを測る。先端以外の断面形は角状を呈する。両端はやや先細る形状である。3・4は釘である。いずれも頂部は欠損している。3は最大長9.7cm、断面形はほぼ方形で最大幅0.5cmを測る。4は最大長8.4cm、最大幅0.7cm、厚さは0.3cmを測り、やや先端が細くなる。3は床面下の粗掘層、4は新段階に伴うP22出土である。5・6は用途不明製品である。同一個体とみられる。幅は5が0.6cm、6は1.0cmを測る。厚さは0.1～0.2cmでうすく平たい断面形を呈する。新段階の覆土出土である。

新段階の床面直上出土土器から、新段階の住居廃絶時期は9世紀前半に位置づけられる。また、貼床下出土土器も同時期に相当し、当該住居は旧段階、新段階を含め9世紀前半の時間幅の中で営まれたと考えられる。

・2号竪穴住居跡(SI2)

調査区の東壁南部付近で検出した。現地表面から約30cmの深さで確認され、黄褐色土層を掘り込んでいる状況が確認された。確認された遺構の範囲は、西辺と北西角・南西角を確認した。西辺長は約2.7mを測る。堆積状況は、1・2層が近代の耕作土であり、3層から下層がSI2の堆積層となる。堆積層は3～16層に細分され、堆積状況から廃絶後の自然堆積により埋まったと考え

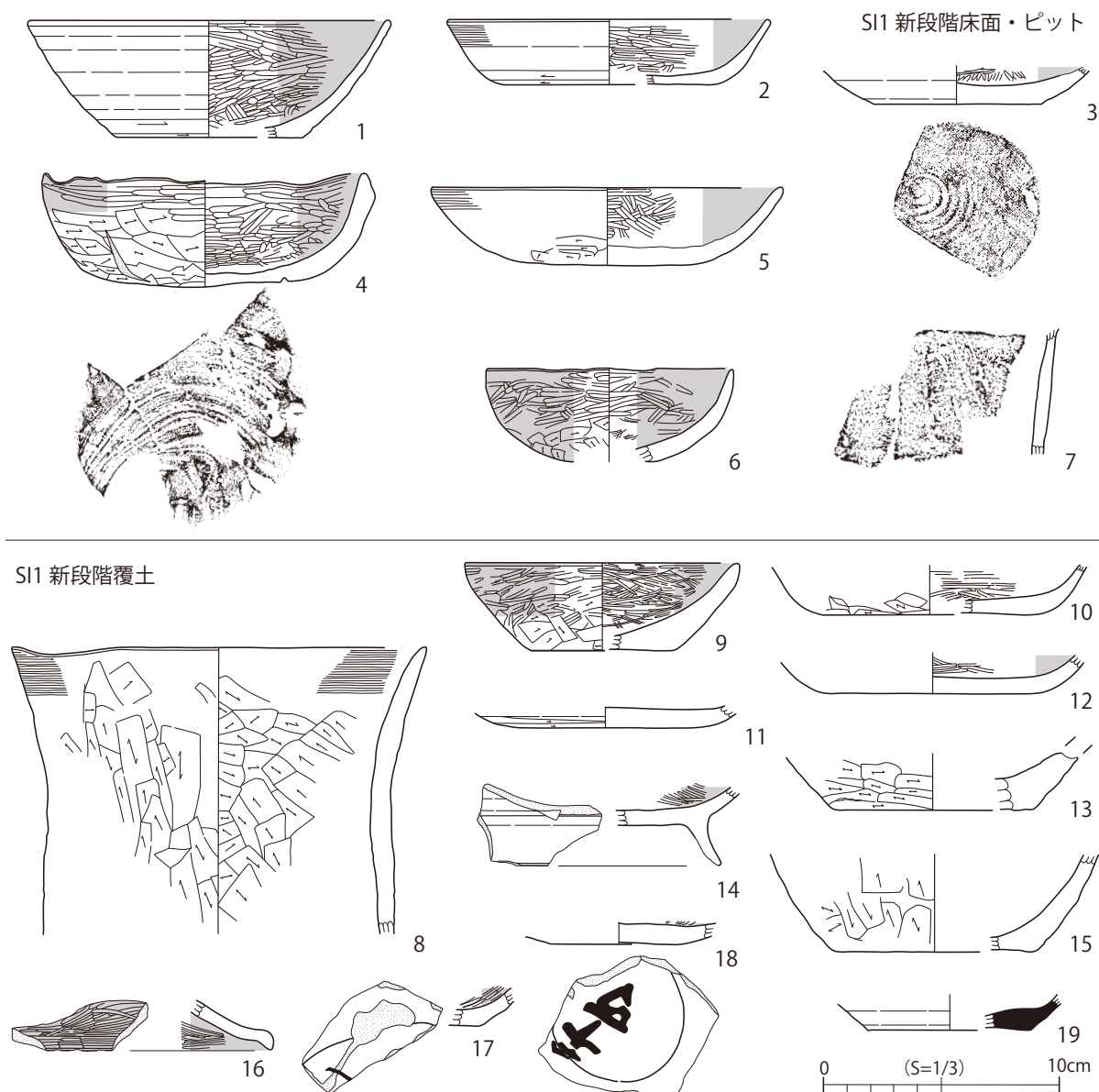


図12 SI1 新段階出土遺物

られる。遺物は、土師器片と須恵器片が少量出土したため、SI2は古代の遺構と判断する。住居内施設はピット1基が確認されたが、その他の遺構は確認されなかった。

本竪穴住居跡は明確な出土遺物が出土していないことから、詳細な構築時期は不明である。しかし、本調査区では8世紀後半から9世紀にかけての遺物が出土していることから、当該時期の所産と考えられる。

・3号竪穴住居跡(SI3)

調査区の北壁付近、SI1粗掘りの下層から検出した。SI1旧段階のピットに切られていることから、SI1より古い時期の遺構と判断した。確認された遺構の範囲は南辺と東辺の一部、南東・南西角が確認されたが、南辺と南東角はSI1の遺構によって一部切掘削されている。南辺は約2.7mを測る。

住居内施設は確認されなかったが、調査区北壁で確認したSI3の6層から、カマドの一部と考

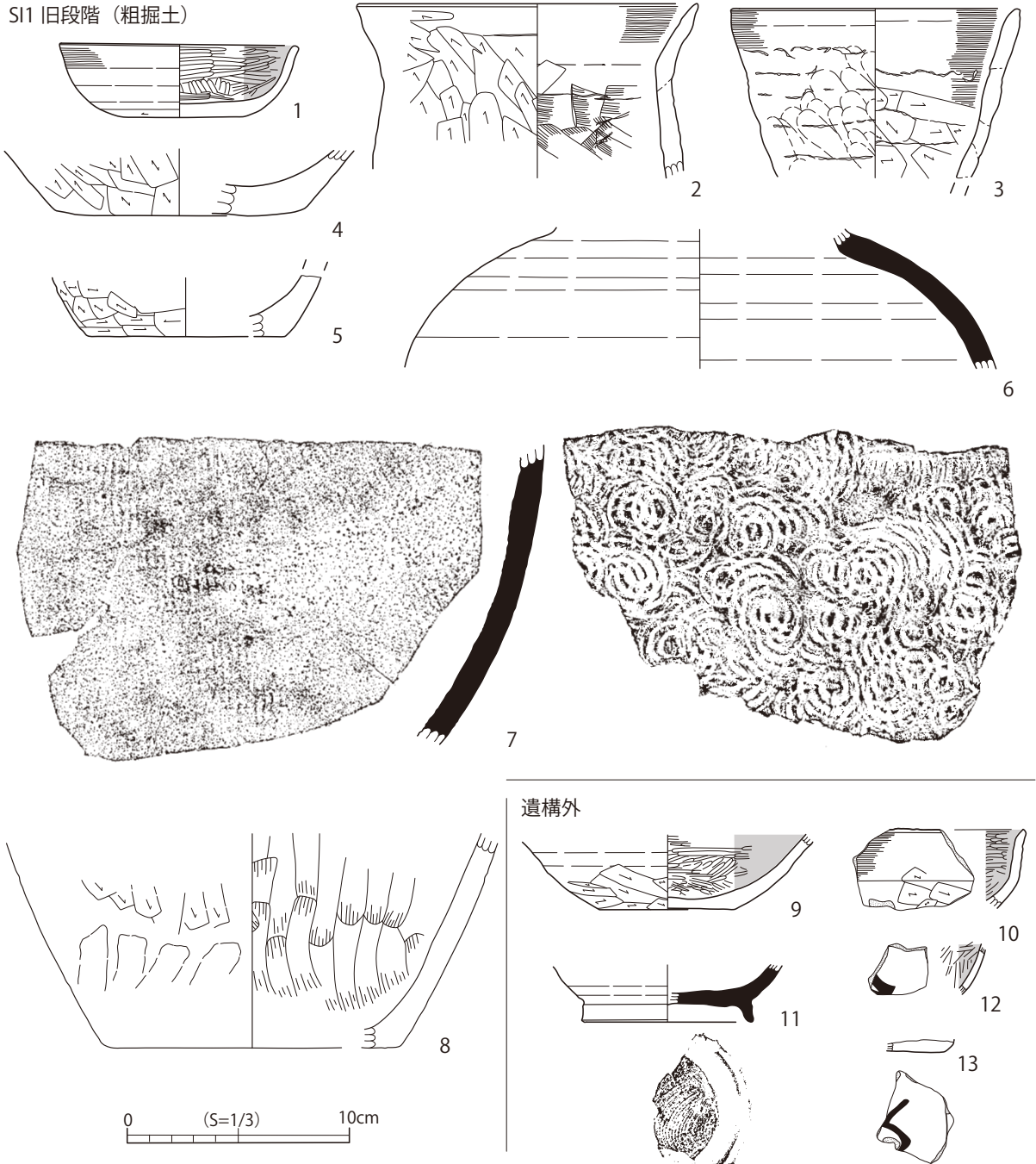


図13 SI1 旧段階出土遺物

えられる直径約20cmの焼土ブロックが確認されている。

本竪穴住居跡は重複関係はSI1より古いことから、9世紀前半以前に構築されたと考えられる。また、8世紀前半以前の遺物がほぼ出土していないことから、8世紀後半から9世紀前半の所産である可能性が高いと判断できる。

・遺構外出土遺物

図13-9~13は遺構外出土器である。9はロクロ成形の坏である。10は口縁下に稜を持ちやや外反する口縁を呈する非ロクロ成形の坏である。11は須恵器で、高台付の瓶類底部である。12・13は墨書土器で、12は外面、13は底面に墨書がある。いずれもロクロ成形である。

8. 調査所見 今回の発掘調査では、9世紀前半の竪穴住居跡(SI1)が1軒確認された。その他2軒の竪穴住居跡は、その他の出土遺物から、8世紀後半から9世紀の所産と推定される。またSI1からは、ほぼ完形の鉄製紡錘車が出土していることも特筆される。

当該地点に隣接する3次調査(南相馬市教育委員会2008)、9次調査(南相馬市教育委員会2019)においても9世紀代の遺構・遺物が確認されている。桜井D遺跡では、これまでに8世紀後半から9世紀中頃を中心とした集落であることが確認されており、本調査地点でもその成果を補強する成果となった。なお、本地点に隣接する9次調査においても本調査地点と同じく「千万」と記された墨書土器が出土していることも注目される。

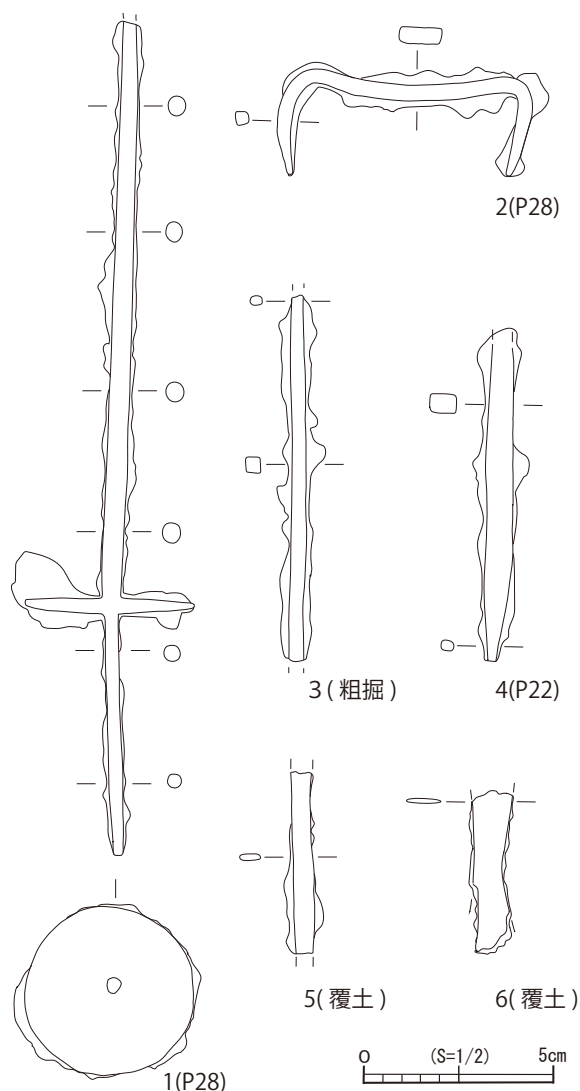


図14 SI1 旧段階出土遺物（鉄製品）

参考文献

南相馬市教育委員会 2008 「南相馬市内遺跡発掘調査報告書4」

南相馬市教育委員会 2019 「東日本大震災復興関連遺跡発掘調査報告書2」



写真1 S11 検出状況



写真2 P6 検出状況



写真3 P6 土層断面



写真4 P22 検出状況

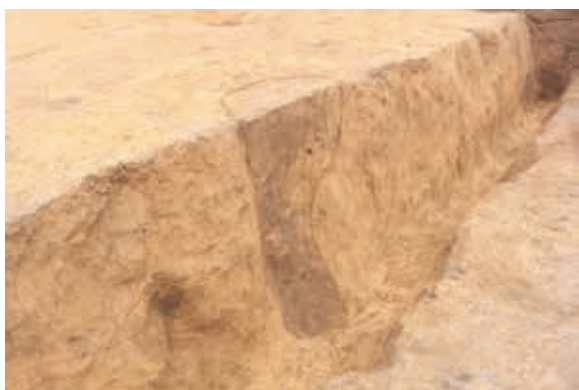


写真5 P7 検出状況



写真6 P9 検出状況



写真7 P12 検出状況



写真8 S11 床面検出状況



写真9 P23～P26 検出状況



写真10 P27 検出状況



写真11 P29 検出状況



写真12 P32・P33 検出状況



写真13 SI1 完掘状況



写真14 SI2 検出状況



写真15 SI2 完掘状況



写真16 SI3 検出状況

第2節 試掘調査成果

第1項 犬塚A遺跡(1～3次調査)

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市小高区大富字犬塚地内
3. 調査期間 令和2年4月27日～9月28日
4. 調査対象面積 33,802㎡
5. 調査面積 153.7㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩

7. 調査成果 今回の調査では、1～3次にかけての段階的な調査が行われた。開発範囲内に調査区を合計46箇所設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。調査の結果、開発範囲内から古代の木炭焼成土坑2基、古代の木炭窯跡1基、近代の木炭窯跡5基を確認した。

1次調査では、調査区を12箇所設定した。調査の結果、現地表面から約20cm～50cmの深さで基盤層である褐色土層を確認した。9Tから木炭焼成土坑1基、11Tから木炭窯跡1基を検出した。遺物は、9Tから須恵器甕(図17-1)が出土しており、木炭焼成土坑内からの出土であることから、古代の木炭焼成土坑であると判断した。また、確認された木炭焼成

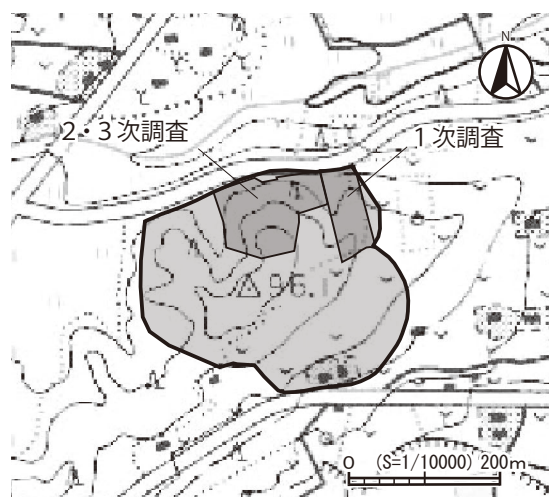


図15 犬塚A遺跡位置図

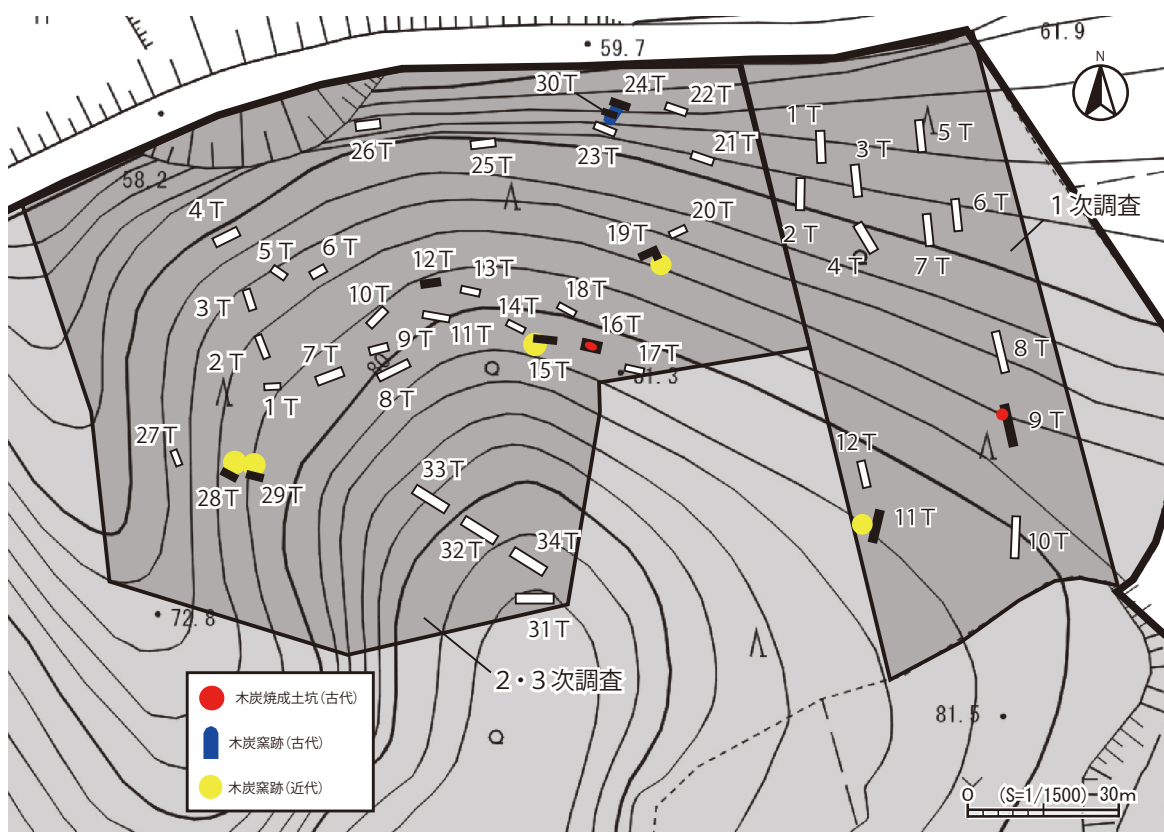


図16 1次～3次調査区位置図

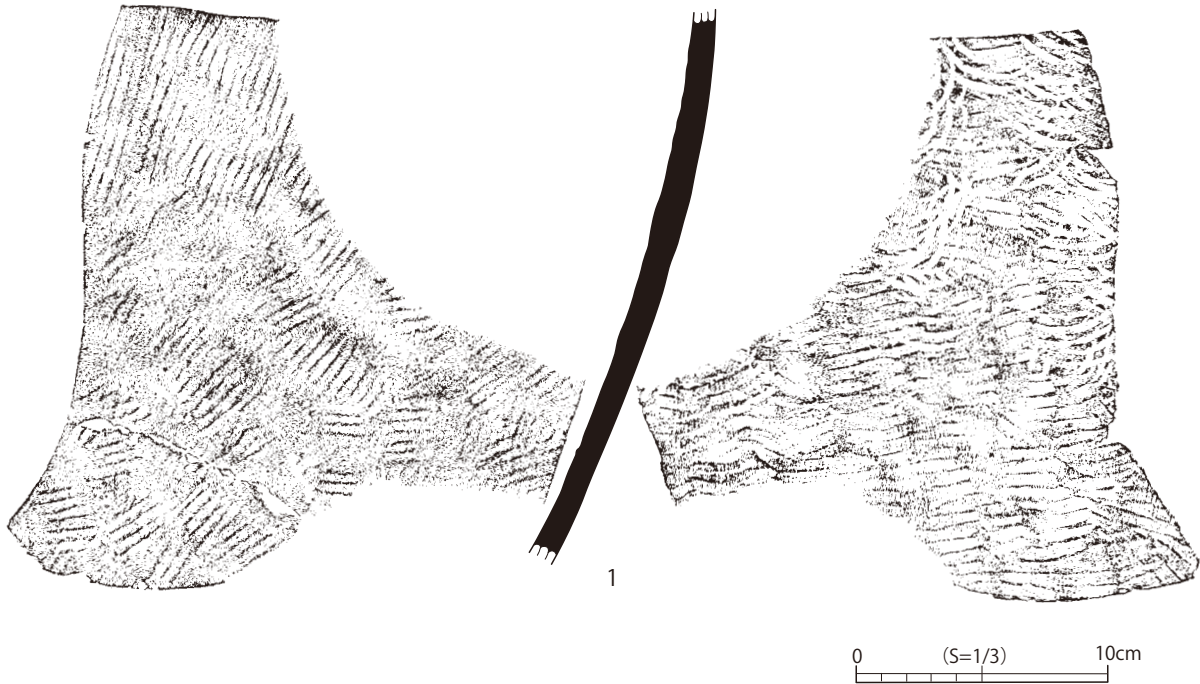


図17 犬塚A遺跡1次調査出土遺物

土坑は長軸約100cm、短軸約60cm、深さ約40cmを測る。12 Tで確認された木炭窯跡には、炭化物と焼土が確認されているが、炉体部分と考えられる落ち込みが円形であることから近代の木炭窯跡と判断した。

2次調査では、調査区を30箇所設定した。調査の結果、現地表面から約30cm～60cmの深さで基盤層を確認した。遺構は16 Tから木炭焼成土坑1基、15 T・19 T・28 T・29 Tから円形の落ち込みを伴う近代の木炭窯跡4基が確認された。確認された木炭焼成土坑は長軸約200cm、短軸約50cm、深さ約30cmを測る。内部は全体に炭化物が混じり黒褐色土が堆積する。24 T・30 Tから楕円形の落ち込みを伴う古代と推定される木炭窯跡1基が確認された。

遺物は12 Tから縄文時代前期と考えられる縄文土器片が1点出土したが、周辺の調査区からは確認されなかった。

3次調査では、2次調査の追加調査として31 T～34 Tの4箇所の調査区を設定した。調査の結果、現地表面から約30cm～50cmの深さで基盤層を確認した。調査区内から保存協議を要する遺構・遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の調査では、保存協議を要する埋蔵文化財が確認された。そのため、埋蔵文化財が確認された調査区及び周辺が保存協議の対象となり、開発を行う際は事前に協議が必要となる。協議の結果、確認された遺構への影響が免れない場合は、記録保存を目的とした発掘調査が必要となる。



写真 17 9 T 調査状況



写真 18 9 T 木炭焼成土坑検出状況



写真 19 15 T 調査状況



写真 20 16 T 調査状況



写真 21 16 T 木炭焼成土坑検出状況



写真 22 18 T 調査状況



写真 23 24 T 木炭窯跡検出状況



写真 24 33 T 調査状況

第2項 池ノ沢遺跡(4次調査)

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市小高区神山字池ノ沢地内
3. 調査期間 令和2年5月8日～5月13日
4. 調査対象面積 8961.94㎡
5. 調査面積 42.8㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 調査では、開発予定地内に調査区を11箇所設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。調査の結果、現地表面から約10cm～30cmの深さで基盤層である褐色土層を確認した。製鉄に関連した遺構・遺物の検出が予想されたが、調査区内から遺構・遺物は確認されなかった。

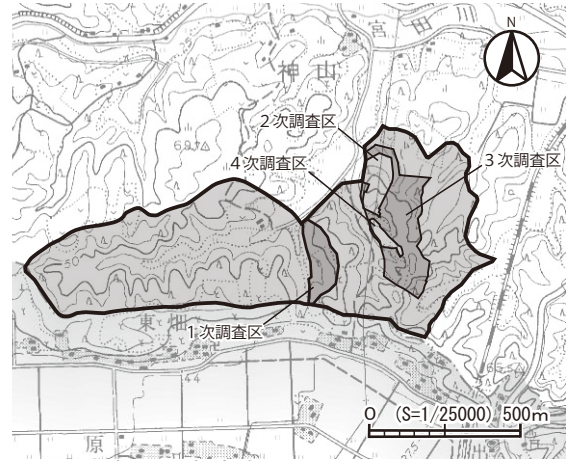


図18 池ノ沢遺跡位置図

8. 調査所見 調査の結果、開発予定地内から保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかった。このことから、改めて保存協議を行う必要はない。しかし、埋蔵文化財包蔵地に該当していることから慎重工事による対応が望ましい。

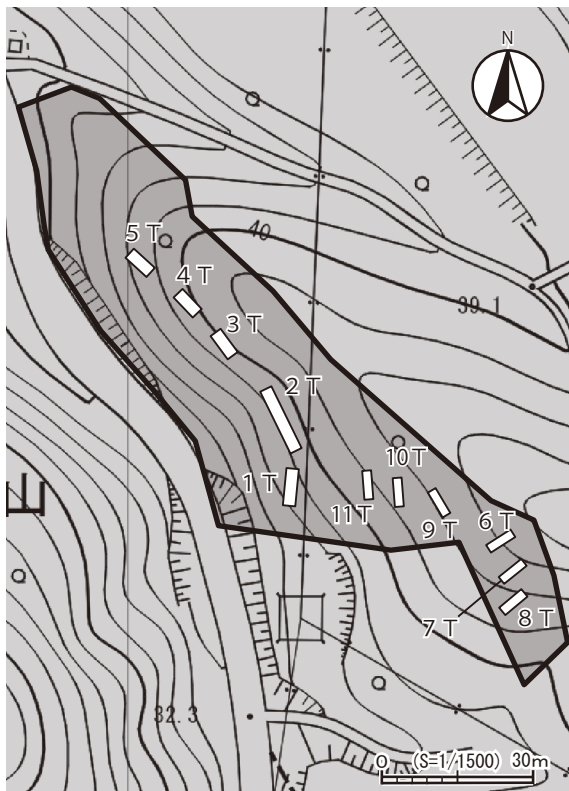


図19 調査区位置図



写真25 3T調査状況



写真26 6T調査状況

第3項 白幡前遺跡(2次調査)

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市小高区大井字上山畑地内
3. 調査期間 令和2年5月25日
4. 調査対象面積 962.56㎡
5. 調査面積 22㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内

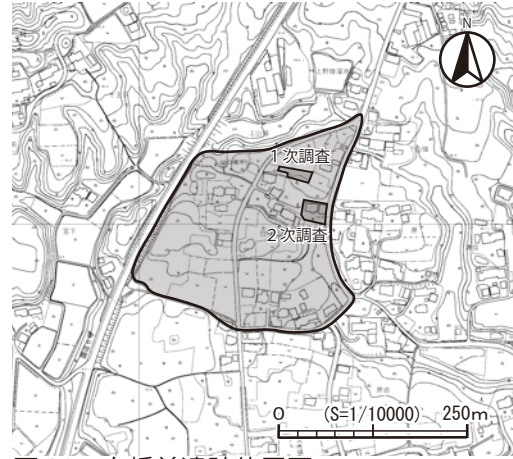


図20 白幡前遺跡位置図

に幅1m×長さ2mの調査区を1箇所、幅2m×

長さ10mの調査区を1箇所に設定して、埋蔵文化財の有無の確認を行った。1Tでは、現地表面から5cm～10cmの深さで基盤層を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。2Tでは、現地表面から20cmの深さで基盤層を確認し、柱穴の可能性があるピット4基を確認した。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、柱穴等の可能性があるピットが確認された。したがって、開発に際しては、事前に保存協議が必要となる。保存協議の結果、埋蔵文化財の保存が困難な場合は、記録保存を目的とした、本発掘調査が必要となる。



図21 調査区位置図



写真27 1T調査状況



写真28 2T調査状況

第4項 槽内遺跡(1次調査)

1. 調査原因 太陽光発電施設建設
2. 調査地点 南相馬市小高区上根沢字槽内地内
3. 調査期間 令和2年6月2日
4. 調査対象面積 2,846㎡
5. 調査面積 12㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定

地内に所在する土手を造成工事により削平する

ことから、幅2m×長さ6mの調査区を1箇所を設定して、土手の構築年代を確認するために土手の断割りをを行った。土手の構築土からは丸釘等が出土したことから、土手の構築年代は近代以降と判断される。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、保存協議を必要とする埋蔵文化財は確認できなかったため、改めて保存協議を行う必要はないが、周知の埋蔵文化財包蔵地であることから慎重工事による対応とする。

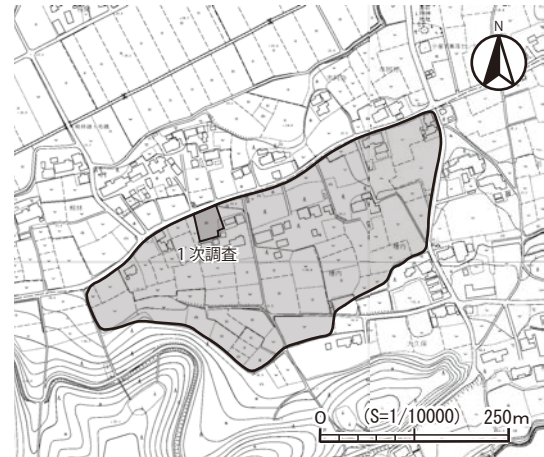


図22 槽内遺跡位置図



図23 調査区位置図



写真29 1 T 調査前状況



写真30 1 T 調査状況

第5項 小高城跡(6次調査)

1. 調査原因 太陽光発電設備設置
2. 調査地点 南相馬市小高区小高字金谷前地内
3. 調査期間 令和2年6月15・16日
4. 調査対象面積 3,069.57㎡
5. 調査面積 40㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に幅2m×長さ10mの調査区を2箇所に設定して、埋蔵文化財の有無の確認を行った。

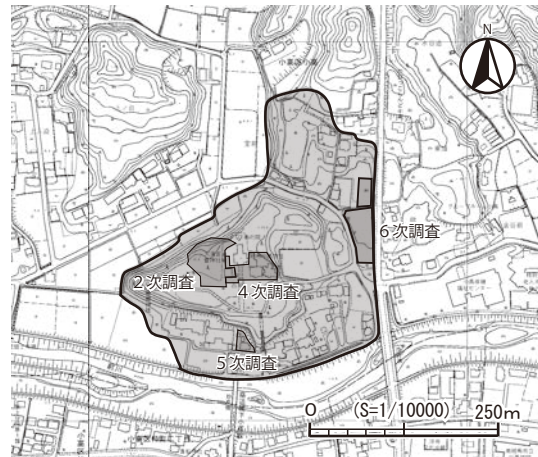


図24 小高城跡位置図

1 Tでは、調査区東側で現地表面から70cm～180cmの深さで基盤層に達し、柱穴の可能性のあるピットを5基確認した。調査区西側では、200cmの深さまで掘削したが、基盤層には到達せず、東側から西側に向かい傾斜を持つ地形であることを確認した。2 Tでは、現地表面から120cm～200cmの深さで基盤層に到達し、柱穴の可能性のあるピットを1基確認した。また、基盤層が調査区の東側から西側に向かい傾斜していることを確認した。上記の試掘調査結果から、開発予定地には小高城跡に関連する建物跡等が所在する可能性が考えられる。また、開発予定地周辺の地形は、東側から小高城の所在する西側へ傾斜しており、小高城の堀として

利用されていたと推測される。

今回の試掘調査で確認された遺構等は、小高城跡と一連の遺跡を構成するものと判断されることから、現地の地形をふまえて、開発予定地の周辺を「小高城跡」の範囲として福島県埋蔵文化財包蔵地台帳に変更増補登録を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地とした。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、柱穴等の可能性のあるピット等の遺構が確認された。したがって、開発に際しては、事前に保存協議が必要となる。保存協議の結果、埋蔵文化財の保存が困難な場合は、記録保存を目的とした本発掘調査が必要となる。

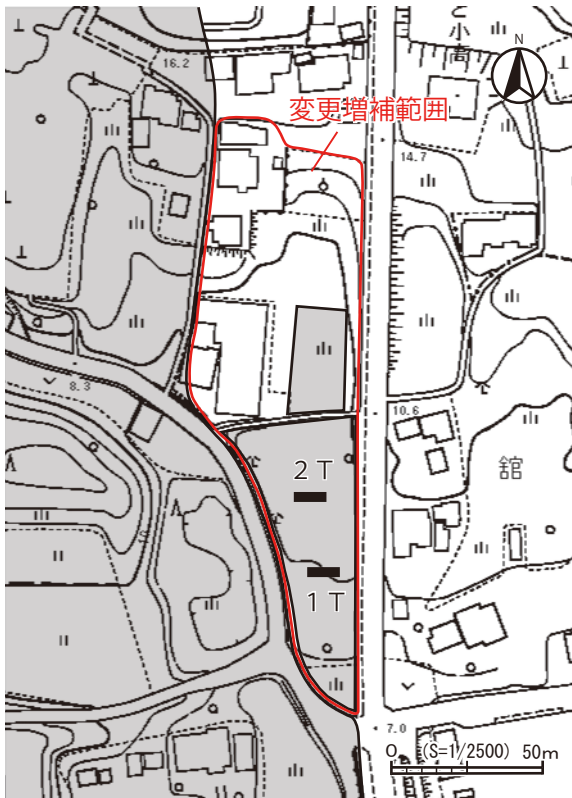


図25 調査区位置図



写真31 1 T調査状況



写真32 1 T調査前状況



写真33 作業状況



写真34 2 T調査状況



写真35 2 T調査前状況



写真36 2 Tピット検出状況

第6項 上渋佐原田遺跡(6次調査)

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区上渋佐原田地内
3. 調査期間 令和2年6月18・22日
4. 調査対象面積 2,048㎡
5. 調査面積 96㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に幅2m×長さ8mの調査区を6箇所

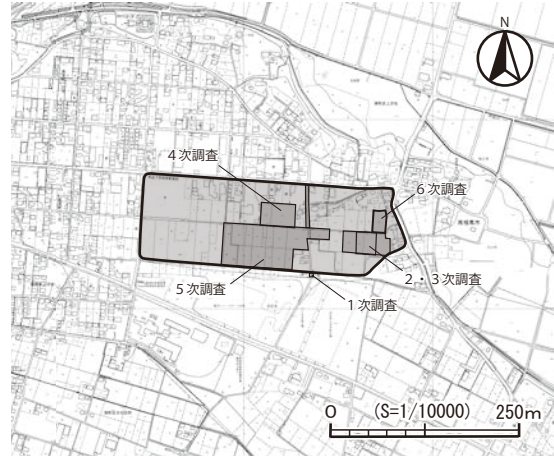


図26 上渋佐原田遺跡位置図

- 所に設定して、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査では、現地表面から約30cm～80cmの深さで基盤層を確認した。基盤層を確認する過程で、遺構・遺物は確認されなかった。
8. 調査所見 今回の試掘調査では、保存協議を必要とする埋蔵文化財は確認できなかったため、改めて保存協議を行う必要はないが、周知の埋蔵文化財包蔵地であることから慎重工事による対応とする。



図27 調査区位置図



写真37 1T調査状況



写真38 4T調査状況

第7項 太田切遺跡(1次調査)

1. 調査原因 太陽光発電設備設置
2. 調査地点 南相馬市小高区大富字熊平地内
3. 調査期間 令和2年6月23・24日
4. 調査対象面積 8,666㎡
5. 調査面積 120㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予

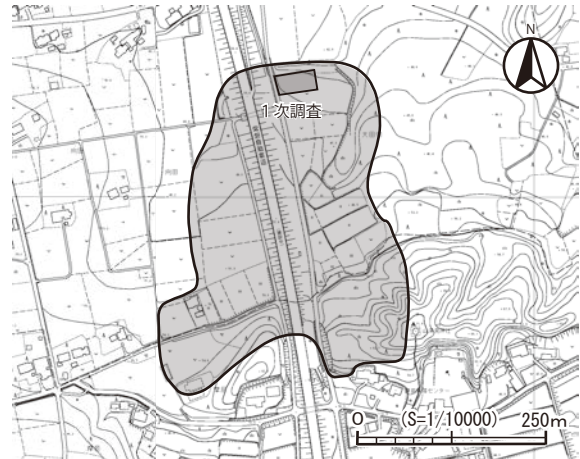


図28 太田切遺跡位置図

定地内に幅2m×長さ10mの調査区を6箇所を設定して、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査では、現地表面から約15cm～40cmの深さで基盤層を確認した。4Tで土坑を1基確認した。遺構内からは縄文時代晩期の土器片（図31-1）が出土したことから、土坑の構築時期は縄文時代晩期と考えられる。その他の調査区では、遺物が少量出土したものの、遺構は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、縄文時代晩期の土坑が1基確認された。したがって、開発に際しては事前に保存協議が必要となる。保存協議の結果、遺構の保存が困難な場合には、記録保存を目的とした本発掘調査が必要となる。

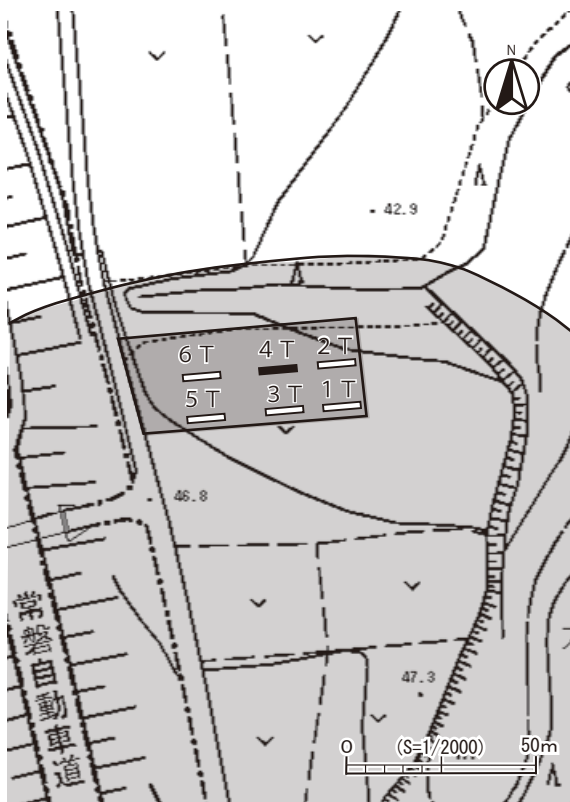


図29 調査区位置図

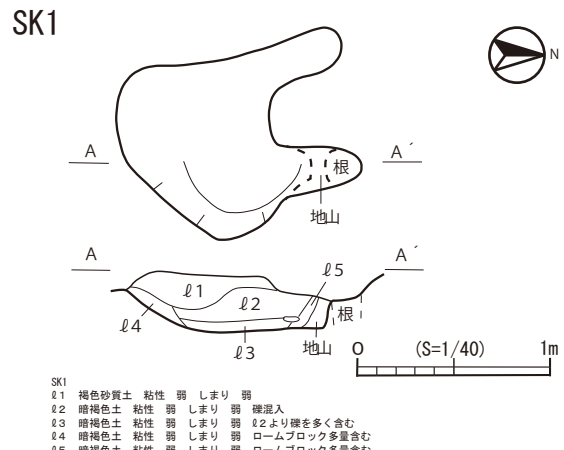


図30 SK1 遺構平面・断面図

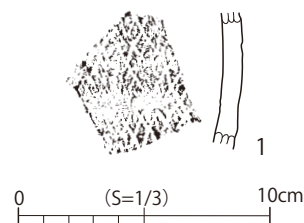


図31 SK1 出土遺物



写真 39 1 T 調査状況



写真 40 2 T 調査状況



写真 41 3 T 調査状況



写真 42 4 T 調査状況



写真 43 4 T SK1 検出状況



写真 44 4 T SK1 遺構断面



写真 45 5 T 調査状況



写真 46 6 T 調査状況

第8項 池ノ沢遺跡（5次調査）

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市小高区神山字池ノ沢地内
3. 調査期間 令和2年7月13日～7月31日
4. 調査対象面積 7,489㎡
5. 調査面積 76.1㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 調査では、開発予定地内に調査区を15箇所設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。調査の結果、現地表面から約10cm～25cmの深さで基盤層である黄褐色土層を確認した。遺物は2T・4Tから羽口片と鉄滓が少量出土したが、いずれも表土中からの出土であり、遺構は確認されなかった。少量の遺物のみが散布していること、調査区周辺が人為的な造成が行われた地形であることから、本来存在していた遺構が造成により消失したと考えられる。

8. 調査所見 今回の調査では、一部の調査区から遺物が確認されたものの、その周辺及びその他の調査区から遺構・遺物は確認されなかった。このことから、改めて保存協議を行う必要はない。しかし、埋蔵文化財包蔵地に該当していることから慎重工事による対応が望ましい。



写真 47 2 T 調査状況

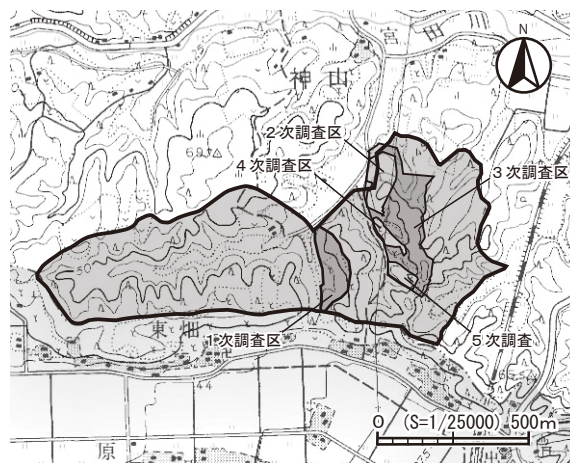


図 32 池ノ沢遺跡位置図



0 (S=1/3) 10cm

図 33 池ノ沢遺跡 5次調査出土遺物

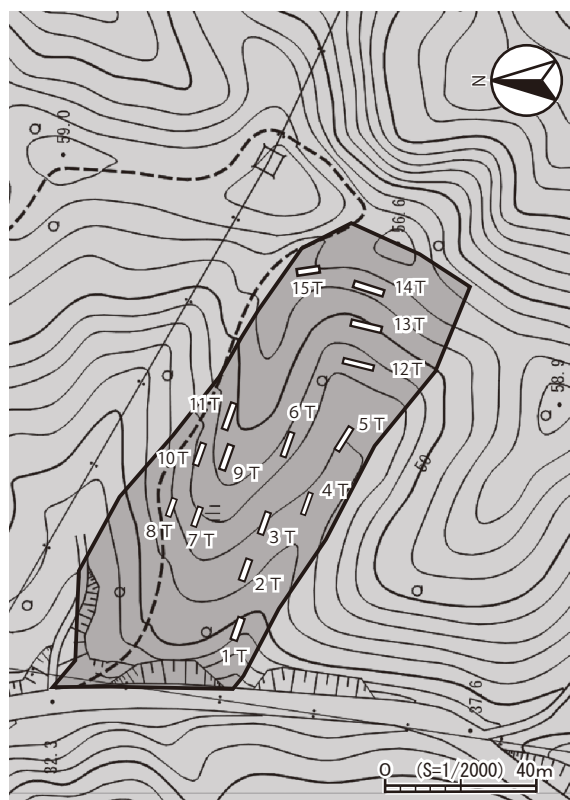


図 34 調査区位置図

第9項 大井花輪館跡(1次調査)

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市小高区大井字松崎地内
3. 調査期間 令和2年8月3日
4. 調査対象面積 1,078㎡
5. 調査面積 23.6㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 調査では、開発予定地内に調査区を2箇所設置し、埋蔵文化財の有無の確認

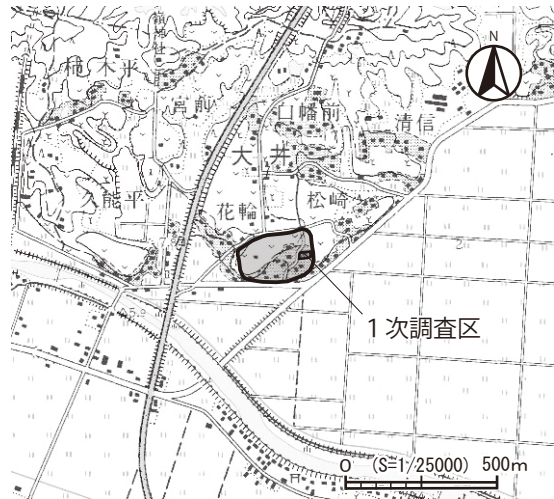


図35 大井花輪館跡位置図

を行った。調査の結果、現地表面から約30cm～40cmの深さで黄褐色土の基盤層を確認した。

遺構は1 Tからピットが11基確認され、近代の攪乱層から土師器片が少量出土した。遺構内から遺物は確認されず、ピットの時期は不明である。しかし、調査が行われた遺跡が館跡であることから、中世段階の遺構の可能性が高い。2 Tからは遺構・遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の調査では、開発範囲内にて保存協議を要する埋蔵文化財が確認された。しかし、開発計画の内容を確認した結果、埋蔵文化財への影響が最小限であることから改めた発掘調査及び保存協議の必要はない。ただし、埋蔵文化財包蔵地に該当していることから工事立会による対応が望ましい。



図36 調査区位置図

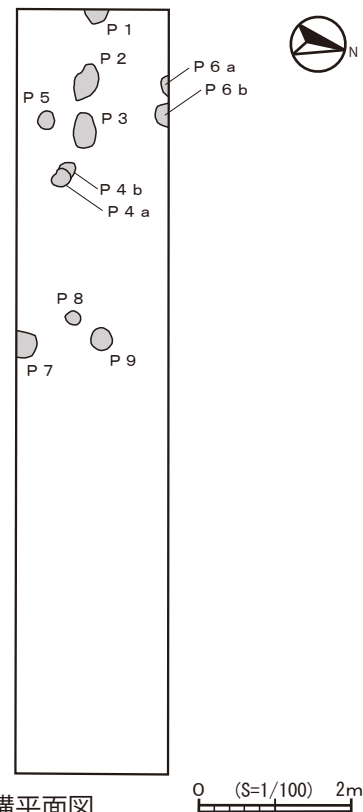


図37 1 T遺構平面図



写真 48 調査前状況



写真 49 1 T 調査状況



写真 50 1 T ピット検出状況①



写真 51 1 T ピット検出状況②



写真 52 2 T 調査状況①



写真 53 2 T 調査状況②

第10項 池ノ沢遺跡(6次調査)

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市小高区神山字池ノ沢地内
3. 調査期間 令和2年8月4日～8月13日
4. 調査対象面積 9,327㎡
5. 調査面積 65.15㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 今回の調査では、開発予定地

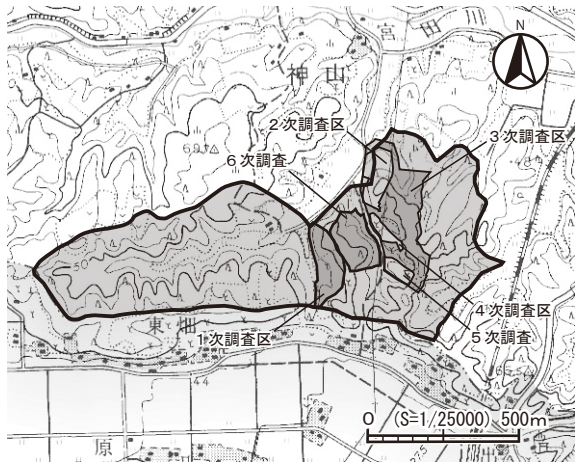


図38 池ノ沢遺跡位置図

内に調査区を26箇所設定し、埋蔵文化財の

有無の確認を行った。また、事前の踏査では廃滓場4箇所、木炭窯跡5基を確認した。

調査の結果、現地表面から約15cm～60cmの深さで基盤層である黄褐色土層を確認した。遺構は、9 Tから木炭焼成土坑1基、23 Tから廃滓場を検出した。

9 Tで確認した木炭焼成土坑は、直径約120cm、深さ約50cmを測る。しかし、近代の攪乱による掘削を受けており、正確な規模は不明である。

23 Tで確認した廃滓場は、踏査で確認された箇所を含めて長軸約6m、短軸約4mを測る。遺物は少量の鉄滓と羽口片が出土した。

その他の調査区では、19 Tから微量の鉄滓が出土した。19 Tから出土した鉄滓は、斜面上

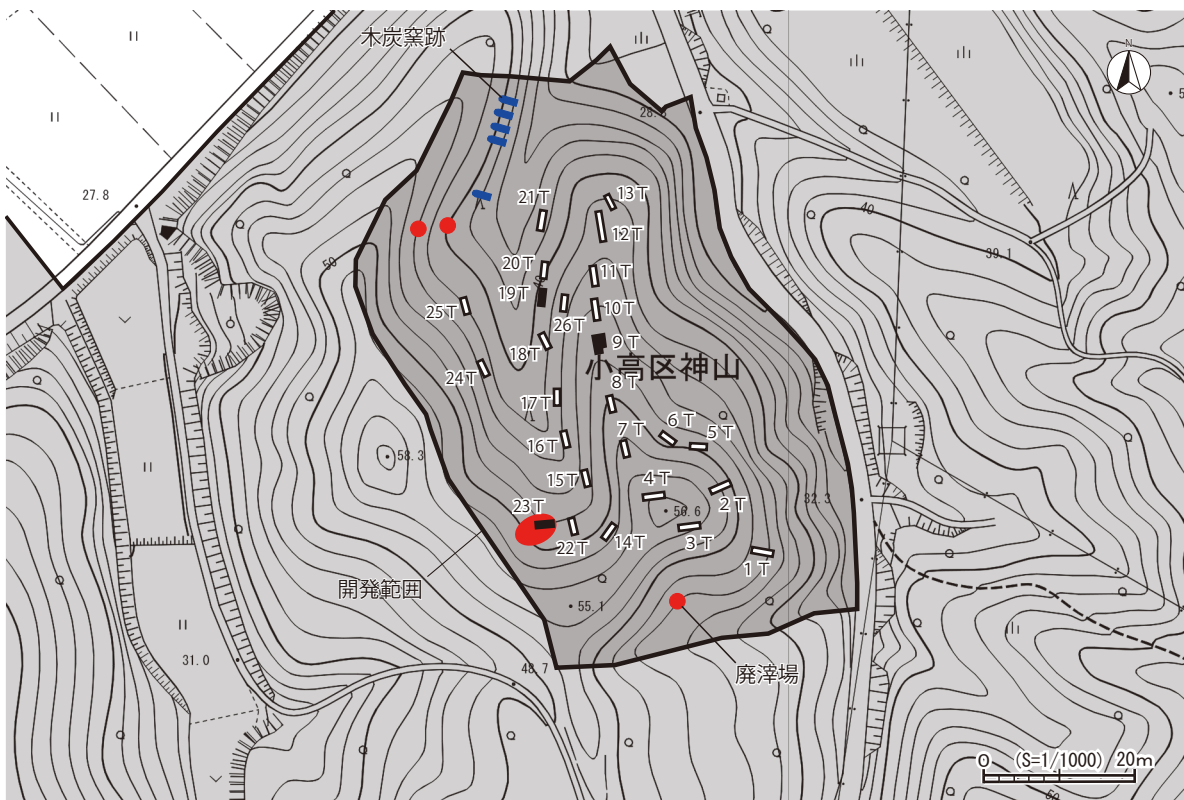


図39 調査区位置図

方の廃滓場から流れたものと判断し、周辺の確認調査を行った。しかし、周辺から遺構・遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の調査では、開発予定地内から保存協議を要する埋蔵文化財が確認され、事前の表面調査により、複数の廃滓場と木炭窯跡を確認している。これらの埋蔵文化財が確認された箇所での開発行為を行う場合は、事前に保存協議を要する。協議の結果、保存が困難な場合は、記録保存を目的とした本発掘調査が必要となる。

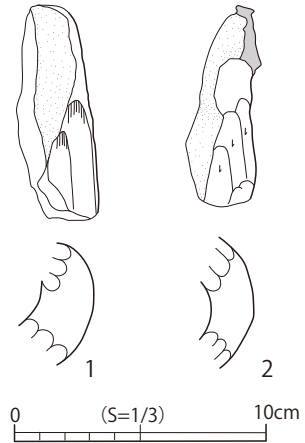


図40 池ノ沢遺跡5次調査出土遺物



写真54 2 T調査状況



写真55 4 T調査状況



写真56 9 T調査状況



写真57 12 T調査状況



写真58 14 T調査状況



写真59 23 T調査状況

第11項 萱浜原畑遺跡(3次調査)

1. 調査原因 事務所建設
2. 調査地点 南相馬市原町区萱浜字原畑地内
3. 調査期間 令和2年9月29日
～令和2年10月16日

4. 調査対象面積 2,611㎡

5. 調査面積 79.5㎡

6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久

7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に調査区を13箇所を設定して、埋蔵文化財の有無の確認を行った。5 Tでは、現地表面から50cmの深さで基盤層に到達し、竪穴住居跡1軒が確認された。竪穴住居跡の覆土からは古墳時代後期の土師器が出土していることから、構築時期は古墳時代後期と考えられる。

13 Tでは、現地表面から5cm～25cmの深さで、褐色を呈する堆積土LⅢが確認された。このため平面・断面観察を行った結果、この堆積土は地山である黄褐色土が多く混入し、旧表土と考えられる黒褐色土LⅣの上面に堆積しており、しまりが強いことから、人為的な積土層と判断した。平成25年度に実施した隣接地の2次調査においても、13 Tで確認された積土層に類似する積土層が確認されており、古墳の墳丘の積土と判断する。今回の調査で、墳丘の

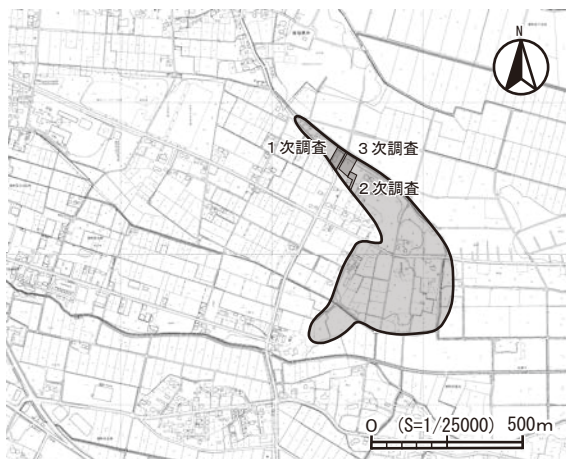


図41 萱浜原畑遺跡位置図



図42 調査区位置図

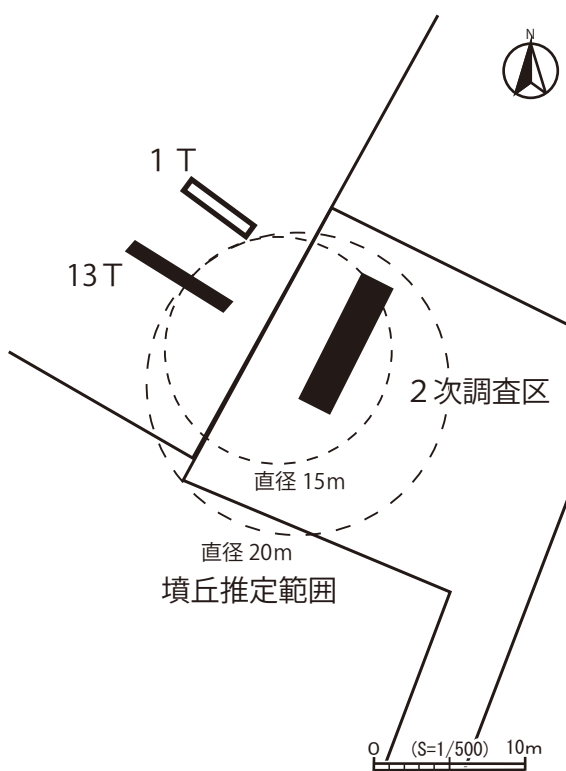
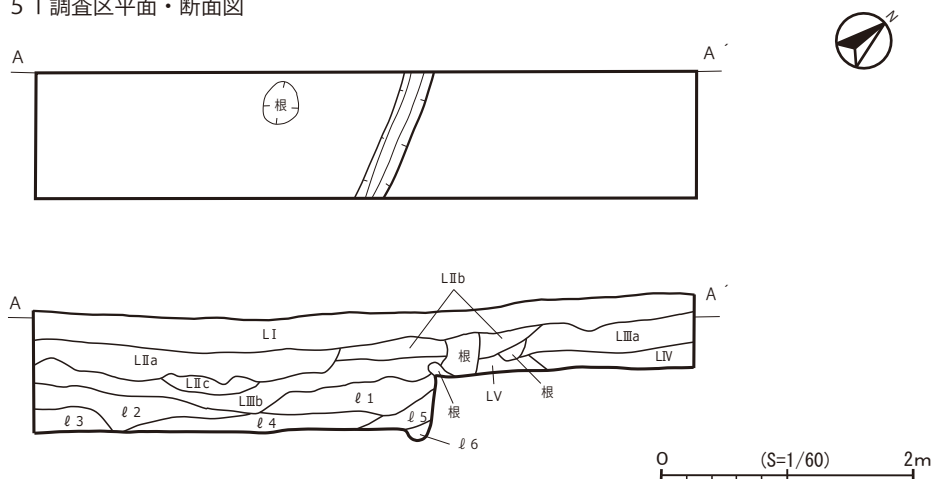


図43 遺構配置図

5 T 調査区平面・断面図



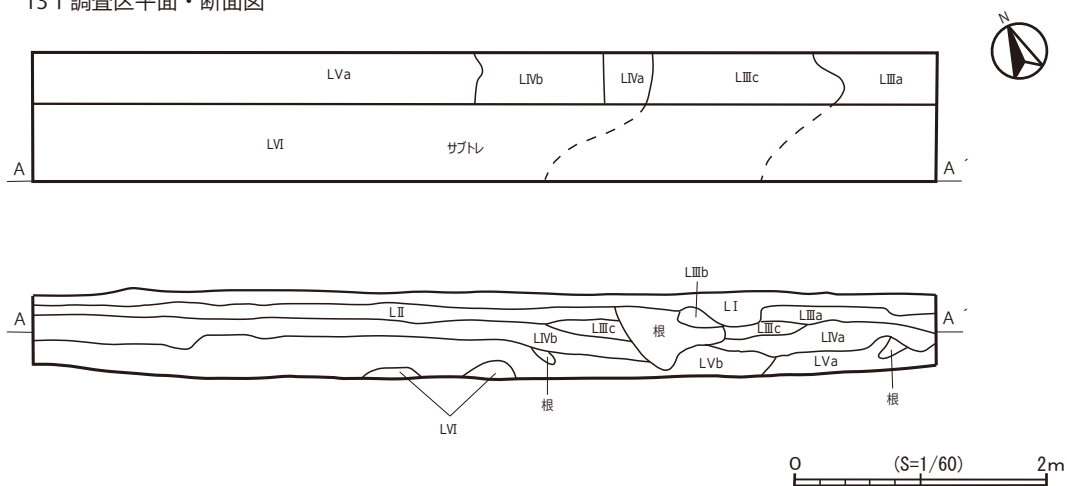
調査区内堆積土

- L I 黒褐色土 粘性 弱 しまり 弱
- L II a 黒色土 粘性 弱 しまり 弱
- L II b 黒褐色土 粘性 弱 しまり 弱
- L II c 黒褐色土 粘性 中 しまり 弱 L II b に類似
- L III a 暗褐色土 粘性 中 しまり 弱
- L III b 暗褐色土 粘性 中 しまり 弱
- L IV 黄褐色土 粘性 中 しまり 弱 地山漸移層
- L V 黄褐色土 粘性 中 しまり やや弱 地山

1号住居跡内堆積土

- ℓ 1 暗褐色土 粘性 やや弱 しまり やや弱
- ℓ 2 黒色土 粘性 やや弱 しまり やや弱
- ℓ 3 暗褐色土 粘性 やや弱 しまり やや弱
- ℓ 4 暗褐色土 粘性 やや弱 しまり やや弱 ℓ 1 より明るい
- ℓ 5 褐色 粘性 やや弱 しまり やや弱
- ℓ 6 褐色 粘性 やや弱 しまり やや弱

13 T 調査区平面・断面図



調査区内堆積土

- L I 黒褐色土 粘性 弱 しまり 弱
- L II 黒色土 粘性 弱 しまり 弱
- L III a 暗褐色土 粘性 中 しまり 強 黄褐色土ブロックを少量まだらに含む 積土
- L III b 暗褐色土 粘性 中 しまり 強 積土
- L III c 褐色土 粘性 中 しまり 強 黄褐色土ブロックをまだらに多量含む 積土
- L IV a 黒褐色土 粘性 やや弱 しまり やや弱
- L IV b 暗褐色土 粘性 やや弱 しまり やや弱
- L V a 褐色土 粘性 中 しまり やや弱 地山漸移層
- L V b 黄褐色土 粘性 中 しまり やや弱 地山漸移層
- L VI 黄褐色土 粘性 中 しまり やや弱 地山

図 44 5 T・13 T 調査区平面・断面図

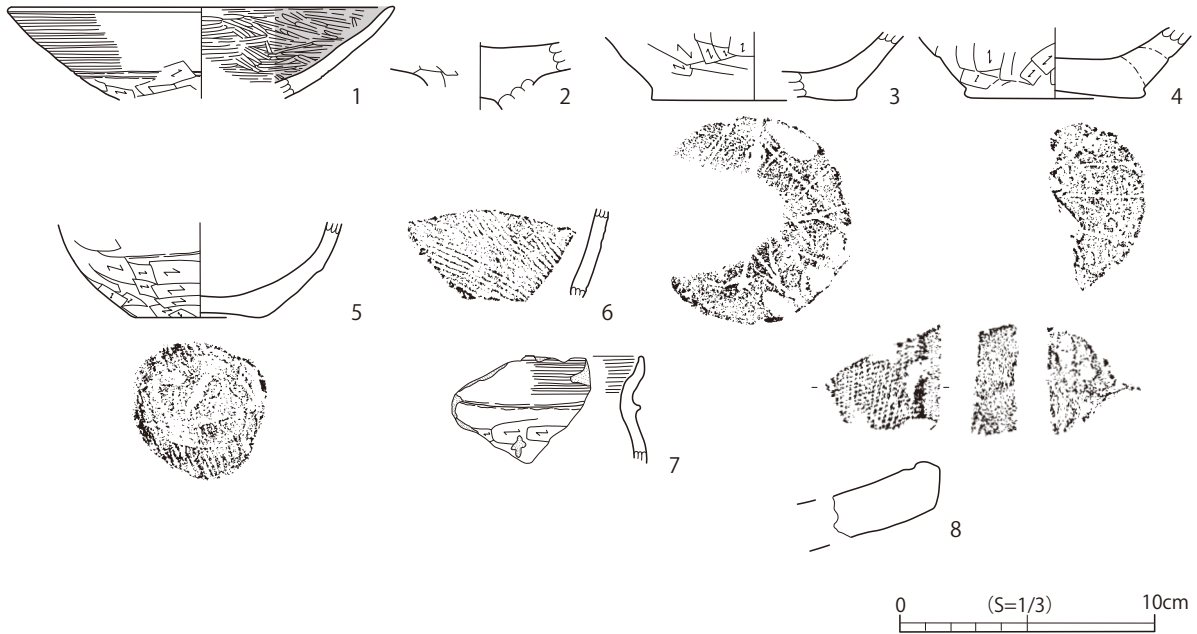


図45 萱浜原畑遺跡3次調査出土遺物

積土の西側の裾部を捉えることができた。2次調査結果を踏まえて墳丘の直径を推定した結果、直径15mでは積土層が墳丘範囲に収まらず、少なくとも直径20m前後の墳丘を持つ古墳と推定されている。また、構築時期については、出土遺物より古墳時代後期と考えられる。

図45は7T出土遺物である。すべて遺構外出土である。1～5・7は土師器である。1は体部下半にわずかな稜を持つ土師器坏である。栗罎式後半段階に位置づけられる。2は高坏、3・4は甕または壺の底部である。底面に木葉痕を残す。5は壺の底部で体部下半にヘラケズリを施す。7は内湾する口縁で頸部に断面三角状の稜線を持つ。口縁部は横ナデ、体部はヘラケズリが施される。これらは古墳時代後期の所産である可能性が高い。6は弥生時代中期後半と考えられる体部破片である。8は平瓦であり、凹面に布目痕を残す。京塚沢瓦窯跡、泉官衙遺跡との関連を指摘できる。

その他の調査区では、遺物は出土したものの、遺構は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、開発予定地南側で、古墳時代後期の竪穴住居跡・墳丘が確認されたことから、保存協議が必要となる。また、開発予定地北側では保存協議を必要とする埋蔵文化財は確認できなかつたため、改めて保存協議を行う必要はないが、周知の埋蔵文化財包蔵地であることから慎重工事による対応とする。



写真 60 1 T 調査状況



写真 61 4 T 調査状況



写真 62 5 T 調査状況



写真 63 5 T S11 検出状況



写真 64 5 T S11 土層断面



写真 65 13 T 調査状況



写真 66 13 T 墳丘積土検出状況



写真 67 13 T 墳丘積土土層断面

第12項 天梅B遺跡(2次調査)

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市小高区金谷字天梅地内
3. 調査期間 令和2年12月7日
～令和3年2月1日
4. 調査対象面積 57,299㎡
5. 調査面積 400.5㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 今回の調査では、開発予定地内に調査区を40箇所設定し、埋蔵文化財の有無

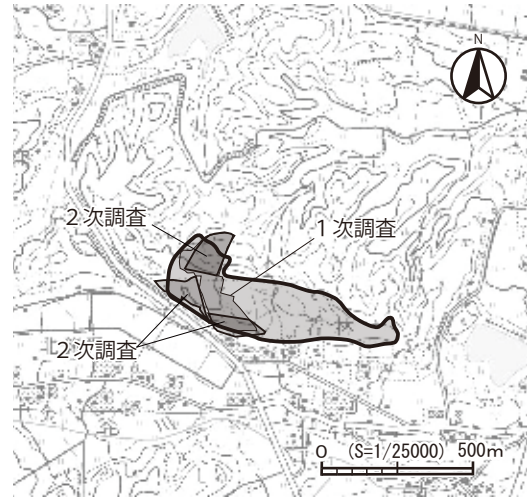


図46 天梅B遺跡位置図

に調査区を40箇所設定し、埋蔵文化財の有無

の確認を行った。また、調査範囲が複数箇所あるため、A～C区の三つの区画に分けて調査を行った。調査の結果、開発範囲内に木炭焼成土坑3基、土坑2基、ピット6基を確認した。



図47 調査区位置図



図48 A区調査区位置図

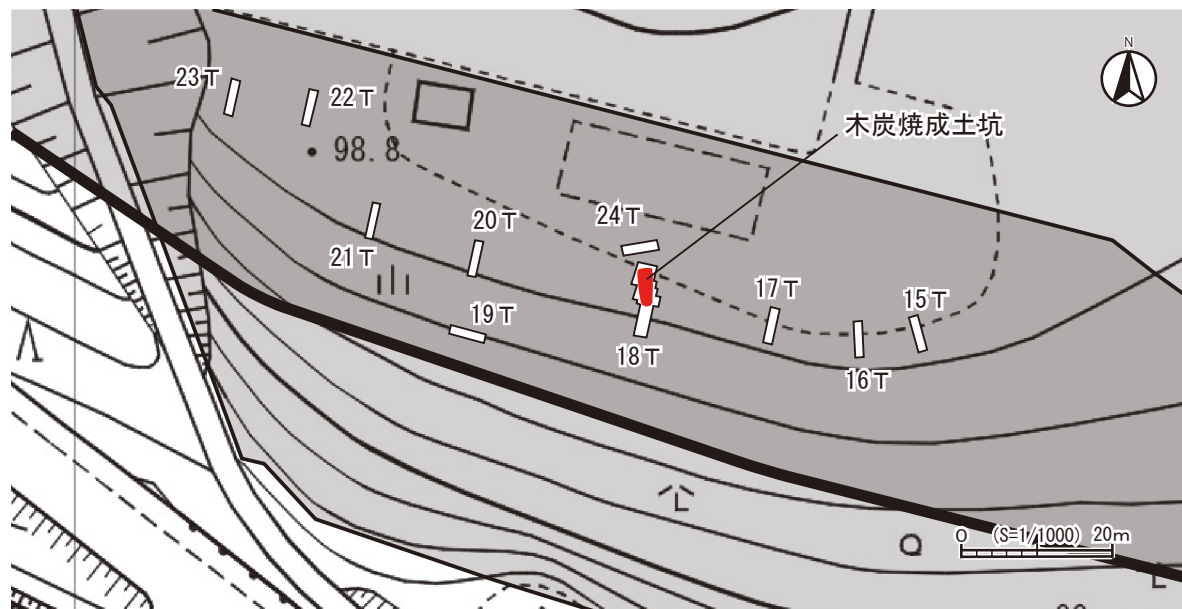


図49 B区調査区位置図

A区では、1T～12T・25T～28Tの16箇所の調査区を設定した。調査では現地表面から約25cm～30cmの深さで基盤層である褐色土層を確認した。6Tから木炭焼成土坑1基とピット2基、9Tからピット3基、11Tから木炭焼成土坑1基、12Tからピット1基と土坑2基が確認された。

6Tでは、隅丸長方形の木炭焼成土坑が確認され、規模は長軸約150cm、短軸約100cm、

深さ約 25cm を測る。

11 T では、やや歪んだ楕円形の木炭焼成土坑が確認され、規模は長軸約 100cm、短軸約 60cm、深さ約 20cm を測る。遺物は、6 T の木炭焼成土坑内から内面黒色処理のロクロ成形の坏が出土している。そのため、出土した木炭焼成土坑は古代の遺構と判断した。

12 T で確認された土坑 2 基は、土坑内から縄文時代前期の縄文土器片が出土している。1 次調査で確認された竪穴住

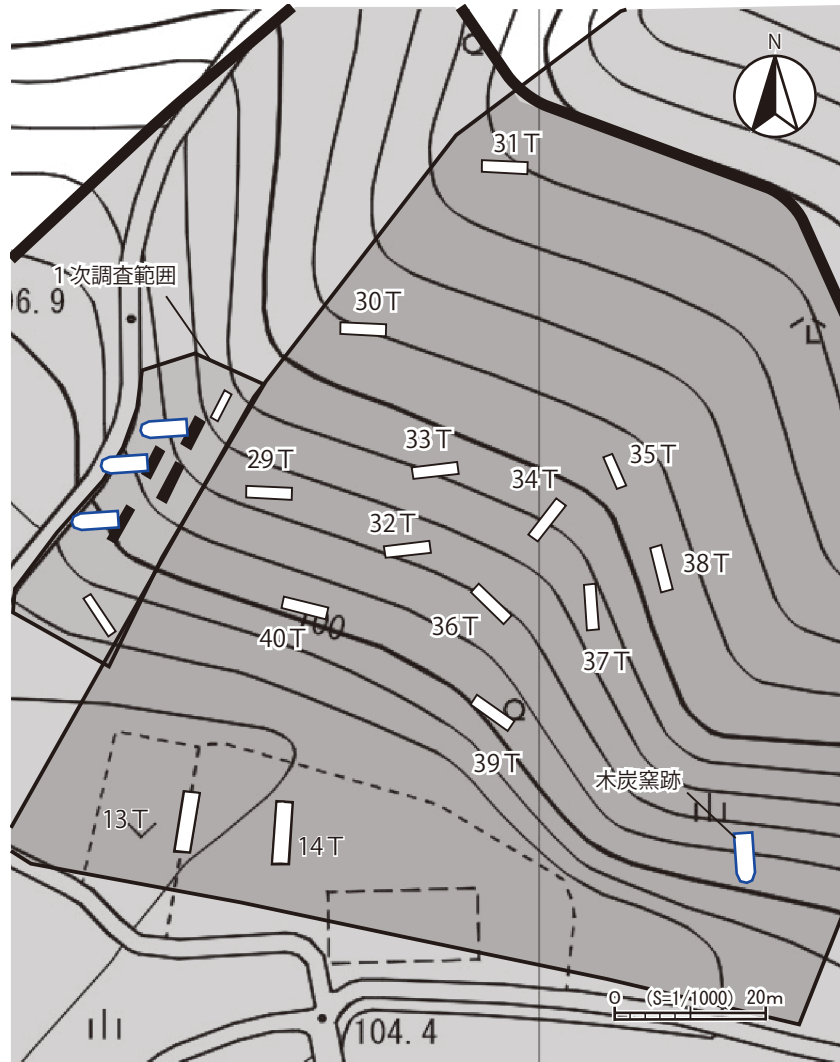


図 50 C 区調査区位置図

居跡からも、同様に

縄文前期の縄文土器が出土していることから時期的に一致している。

6・9・11 T で確認されたピットからは、遺物は出土しておらず、時期・性格ともに不明である。また、遺構以外の出土遺物は、4 T・7 T の表土中から縄文時代前期の縄文土器片が少量出土している。

B 区では、15 T～24 T の 10 箇所の調査区を設定した。調査では、現地表面から約 50cm～80cm の深さで基盤層を確認した。遺構は木炭焼成土坑 1 基を確認したが、その他の調査区から遺構は確認されなかった。遺構は隅丸長形状であり、長軸約 500cm、短軸約 200cm、深さ約 20cm を測る。遺構内から遺物等は確認されなかったため、時期は不明である。遺物は 15 T・17 T・20 T・21 T・24 T から縄文時代前期の土器片が出土したがいずれも表土からの出土である。B 区の北には、1 次調査で確認した縄文時代前期の竪穴住居跡が複数軒存在し、造成による削平が行われた痕跡も見られる。このことから、今回遺物が出土した層は造成によって削平された土が堆積したものと考えられる。

C 区では、13 T・14 T・29 T～40 T の 14 箇所の調査区を設定した。調査では、現地表

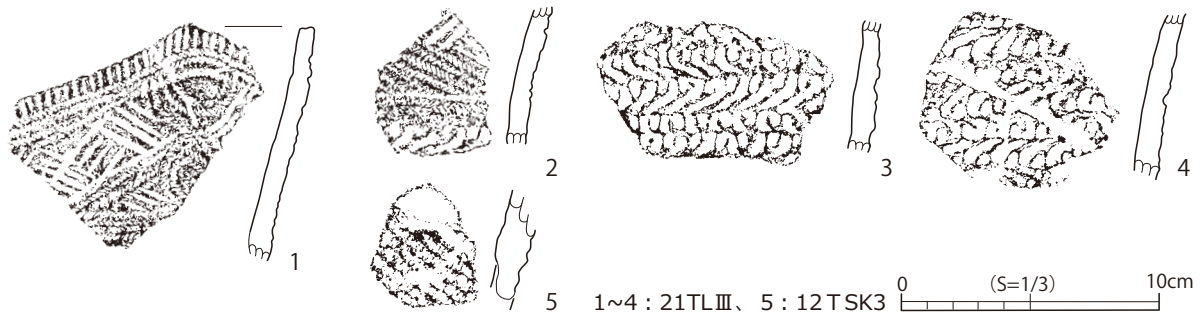


図 51 天梅B遺跡 2次調査出土遺物

面から約 20cm ～ 120cm の深さで基盤層を確認した。C 区周辺では、1 次調査で木炭窯跡 3 基が確認されたため、新たな木炭窯跡の検出が予想されたが、調査区内からは、保存協議を要する遺構・遺物は確認されなかった。また、C 区東部の調査区を設定していない箇所に関しては、廃棄された大量の土砂により谷が覆われている状態のため、調査区の設定は行わなかった。一部地表面が確認できる箇所を踏査した結果、木炭窯跡と考えられる焼けた壁面の一部と多量の炭化物が確認された。1 次調査で確認された木炭窯跡と今回確認された木炭窯の位置から、谷の頂部付近に複数箇所形成する傾向があると考えられ、廃棄された土砂の下層にも複数の木炭窯跡が検出される可能性が高い。

図 51 に出土土器を示した。1 ～ 4 は 21T の遺構外出土遺物で同一個体と考えられる。波状口縁で口縁上半に縄圧痕文と斜位短沈線で文様を描く。体部には羽状ループ文を施す。5 は 12TSK3 から出土している。LR 縄文を施す。いずれも胎土に繊維を含み、縄文前期前半に相当する。

8. 調査所見 調査の結果、開発範囲内に縄文時代前期と古代の遺構が確認された。縄文時代前期の遺構は、1 次・2 次を通して丘陵頂部の平坦面で検出している。調査が行われたのは遺跡の西端部であり、東に向かって遺構が広がる可能性が高い。

古代の遺構は、本遺跡の東に所在する製鉄遺跡の「天梅遺跡」とも時期的に一致するため、1 次調査で確認された木炭窯跡も含め製鉄遺跡に関連性のある遺構と考えられる。

1 次調査範囲及び 2 次調査で縄文時代の土坑が確認された 12 T 周辺は保存協議を要する埋蔵文化財が確認されたため、開発行為を行う場合には事前に保存協議を要し、保存が困難な場合には記録保存を目的とした本発掘調査が必要となる。



写真 68 6 T 調査状況



写真 69 6 T 木炭焼成土坑検出状況



写真 70 11 T 調査状況



写真 71 11 T 木炭焼成土坑検出状況



写真 72 12 T 調査状況



写真 73 12 T SK03 調査状況



写真 74 18 T 調査状況



写真 75 18 T 木炭焼成土坑検出状況

第13項 台遺跡（2次調査）

1. 調査原因 農地造成
2. 調査地点 南相馬市小高区小谷字台地内
3. 調査期間 令和3年1月28日～2月24日
4. 調査対象面積 9,523.5㎡
5. 調査面積 360㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定

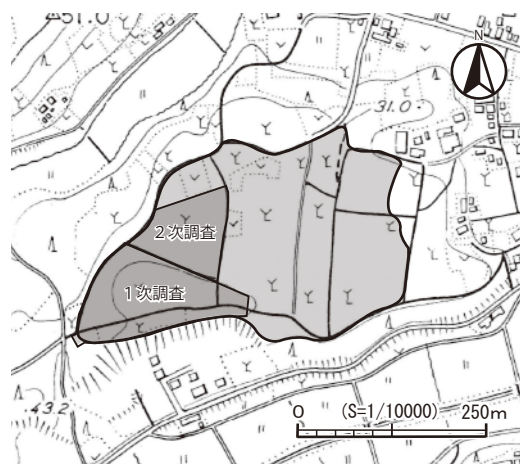


図52 台遺跡位置図

地内に幅2m×長さ10mの調査区を18箇所を設定して、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査では、現地表面から約30cm～40cmの深さで基盤層に到達した。4・9・11～13 Tで竪穴住居跡、3～5 Tで掘立柱建物跡、6 Tを除くすべての調査区でピットが確認された。

竪穴住居跡は、全体で6軒が検出された。いずれも竪穴住居跡の一部のみが検出していることから、明確な規模は不明である。内部から土師器片・須恵器片が出土していることから、古代の遺構であると判断した。

掘立柱建物跡は、全体で3軒が検出している。調査範囲の南側に設定した3 Tと4 Tで確認されている。内部から竪穴住居跡と同様に土師器片が少量出土しており、ほぼ同時期の遺構と

推測する。

13 T SI1 から10世紀の赤焼土器が出土していることから、10世紀の集落が展開すると考えられる。また、調査区内から鉄滓が出土していることから、周囲に製鉄関連の遺構が存在する可能性が考えられる。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、古代の集落の一部と考えられる複数の遺構が確認された。また、調査を行った本遺跡の周辺には中ノ内遺跡や手子塚遺跡といった古代の遺跡が複数確認されており、広範囲に集落遺跡が存在していた可能性が考えられる。

調査を行った開発予定地内は、全体に古代の集落が広がるため、開発の際には保存協議を要する。協議の結果、保存が困難な場合は、記録保存を目的とした本調査が必要となる。

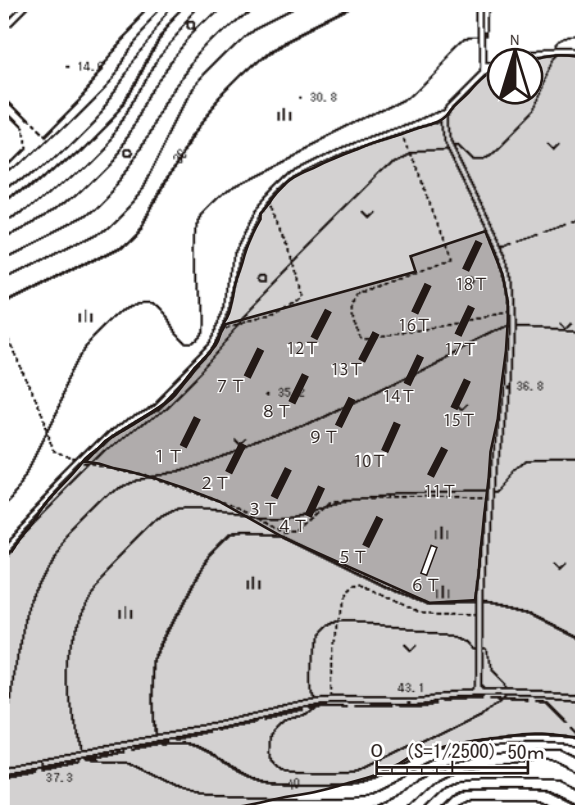


図53 調査区位置図

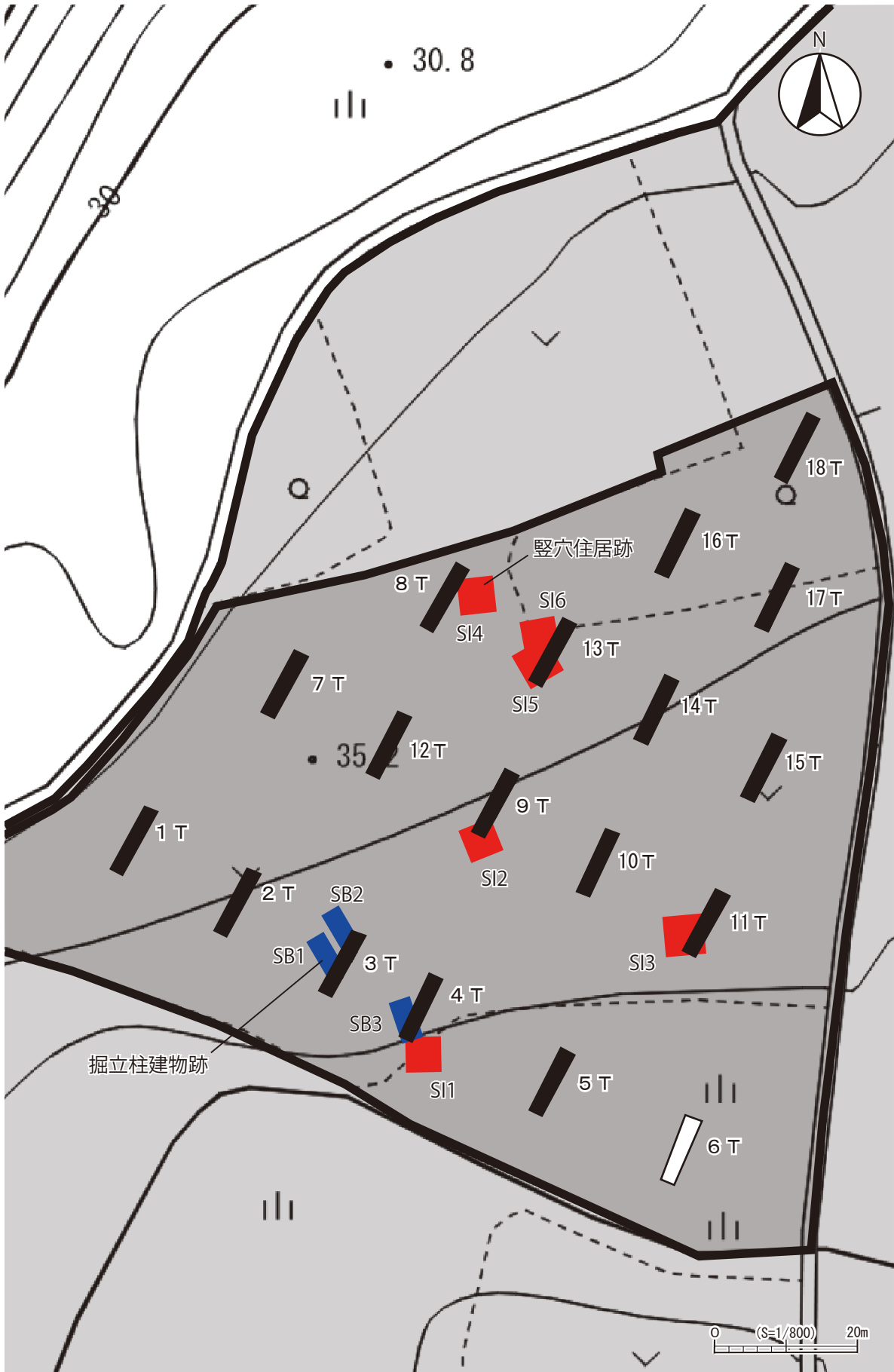


図 54 遺構配置図

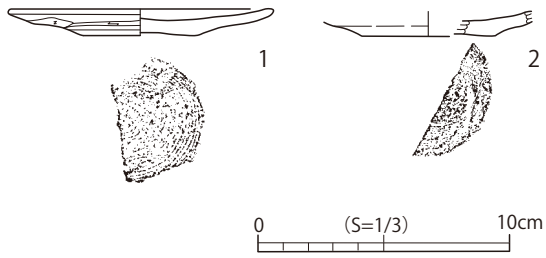


図 55 台遺跡 2 次調査出土遺物



写真 76 3 T 調査状況

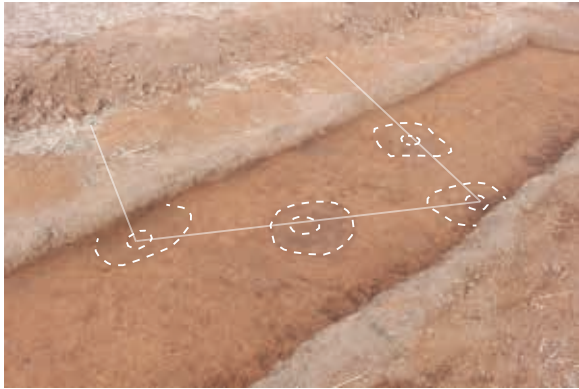


写真 77 3 T 掘立柱建物跡検出状況



写真 78 3 T 柱穴検出状況



写真 79 4 T ピット検出状況



写真 80 4 T S11 検出状況



写真 81 9 T 調査状況



写真 82 9 T S12 検出状況

第14項 野馬土手(中太田地区)

1. 調査原因 商業施設建設
2. 調査地点 南相馬市原町区中太田字
天狗田地内
3. 調査期間 令和3年1月6・7日
4. 調査対象面積 2,960㎡
5. 調査面積 80㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発



図56 野馬土手位置図

予定地内に幅2m×長さ20mの調査区を2箇所を設定して、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査では、現地表面から約90cm～120cmの深さで基盤層を確認した。基盤層を確認する過程で、遺構・遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、保存協議を必要とする埋蔵文化財は確認できなかったため、改めて保存協議を行う必要はないが、周知の埋蔵文化財包蔵地であることから慎重工事による対応が望ましい。

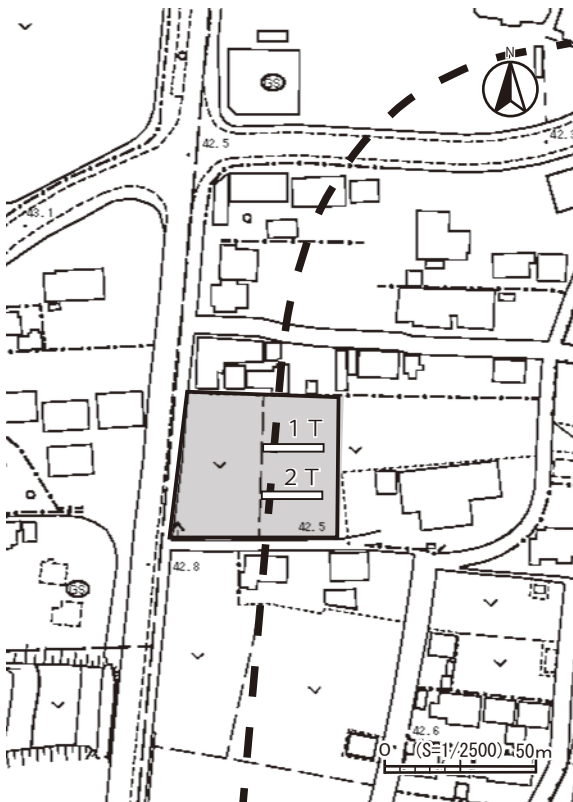


図57 調査区位置図



写真83 1T調査状況



写真84 2T調査状況

第15項 橋本町A遺跡（2次調査）

1. 調査原因 寄宿舍建設
2. 調査地点 南相馬市原町区橋本町地内
3. 調査期間 令和3年1月15日
4. 調査対象面積 989.45㎡
5. 調査面積 12㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発

予定地内に幅 1.5 m×長さ 8 mの調査区を

1箇所を設定して、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査では、現地表面から約 80cmの深さでローム層に到達したが、遺構・遺物は確認されなかった。また、ローム層の一部を断割り、旧石器時代の遺構・遺物の有無の確認に努めたが、遺構・遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、保存協議を必要とする埋蔵文化財は確認できなかったため、改めて保存協議を行う必要はないが、周知の埋蔵文化財包蔵地であることから工事立会により対応することが望ましい。

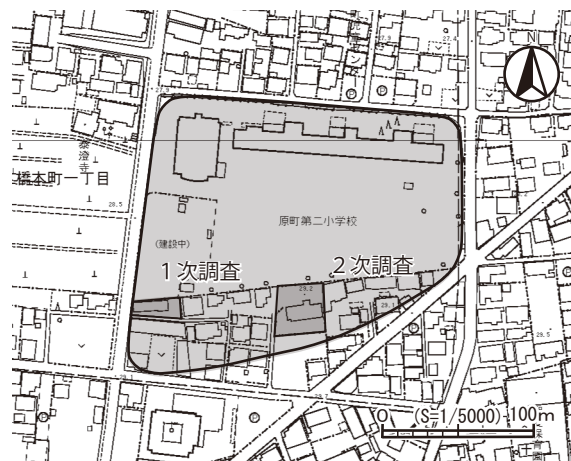


図 58 橋本町A遺跡位置図



図 59 調査区位置図



写真 85 1 T調査前状況



写真 86 1 T調査状況

第16項 陣ヶ崎A遺跡(3次調査)

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区大木戸字南原地内
3. 調査期間 令和3年2月26日
4. 調査対象面積 431.85㎡
5. 調査面積 21.7㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 今回の調査では、開発予定地内に調査区を2箇所設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。

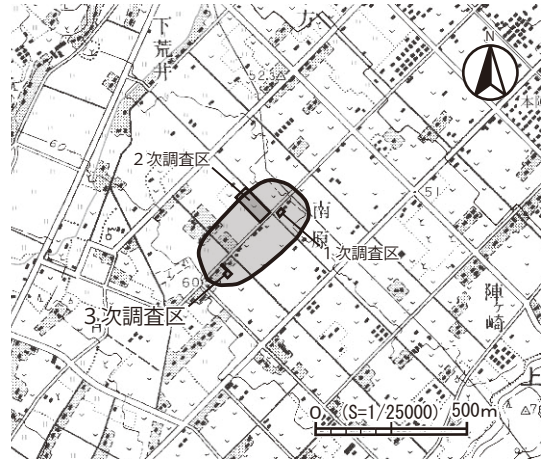


図60 陣ヶ崎遺跡位置図

に調査区を2箇所設定し、埋蔵文化財の有無の

確認を行った。調査の結果、現地表面から約50cm～60cmの深さで基盤層である黄褐色土層を確認した。遺物の散布が想定されたが、調査区内から保存協議を要する遺構・遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 調査の結果、開発予定地内から保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかった。このことから、改めて保存協議を行う必要はない。しかし、埋蔵文化財包蔵地に該当していることから慎重工事による対応が望ましい。

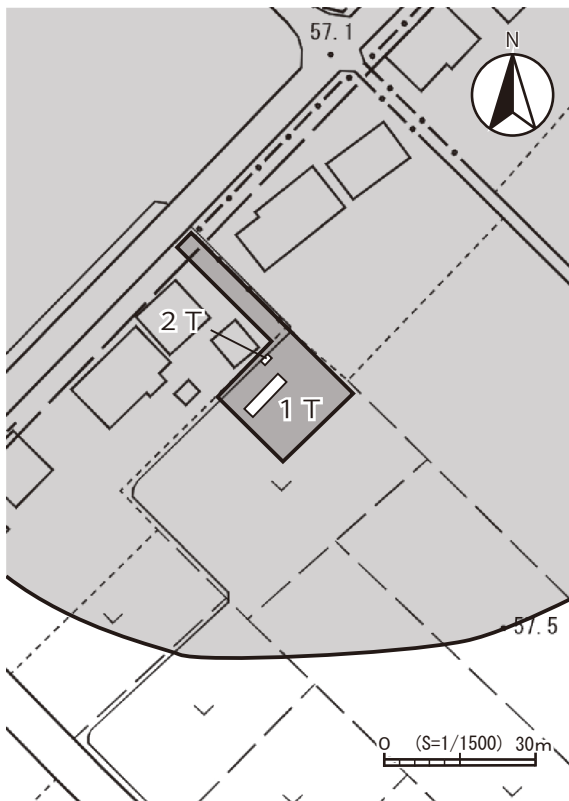


図61 調査区位置図



写真87 1T調査状況



写真88 2T調査状況

第17項 南柚木字仲平後地区

1. 調査原因 太陽光発電設備の設置
2. 調査地点 南相馬市鹿島区南柚木字仲平後地内
3. 調査期間 令和2年4月22日・23日
4. 調査対象面積 7,225㎡
5. 調査面積 29.9㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 調査では、開発予定地内に、



図62 南柚木字仲平後地区位置図

調査区を6箇所設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。調査の結果、現地表面から約10cm～50cmの深さで基盤層である褐色土層と白色岩盤層を確認した。基盤層より上層は造成による盛土であり、1T～5Tでは盛土直下に岩盤層が確認されていることから本来の地形が削平されていると考えられる。また、調査区内から遺構・遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 調査の結果、開発予定地内から保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかった。このことから、改めて保存協議を行う必要はない。

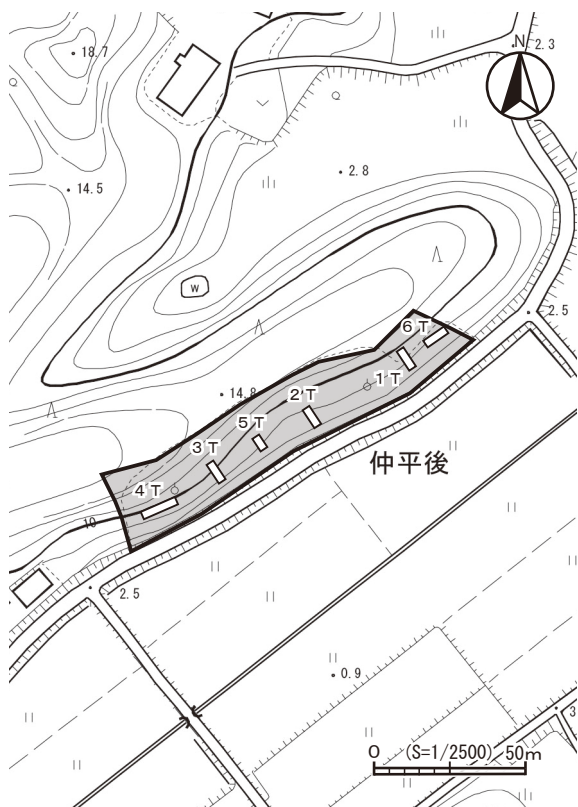


図63 調査区位置図



写真89 2T調査状況



写真90 6T調査状況

第18項 泉字町池地区

1. 調査原因 市道改良
2. 調査地点 南相馬市原町区泉字町池地内
3. 調査期間 令和3年1月13・14日
4. 調査対象面積 6,084 m²
5. 調査面積 6 m²
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査は、開発予定地内の東側に国指定史跡「泉官衙遺跡」

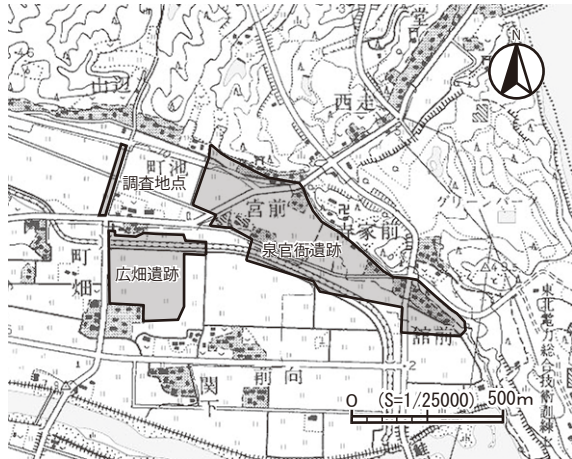


図 64 泉字町池地区位置図

が所在しており、関連する埋蔵文化財が発見される可能性があることから実施した。試掘調査は、開発予定地内に幅1m×長さ3mの調査区を2箇所を設定して、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査では、現地表面から約120cmの深さまで掘削を行ったが、基盤層には到達せず、調査区内には圃場整備に伴う盛土の堆積が認められた。盛土内からの遺物の出土は認められなかった。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、保存協議を必要とする埋蔵文化財は確認できなかったため、改めて保存協議を行う必要はない。

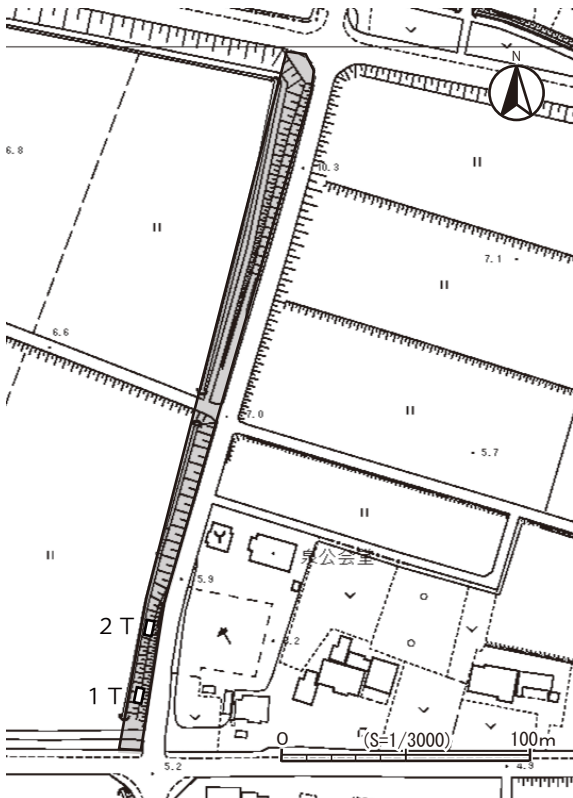


図 65 調査区位置図



写真 91 1 T調査状況



写真 92 2 T調査状況

桜井 D 遺跡 (18 次調査)



写真 93 出土遺物写真 1

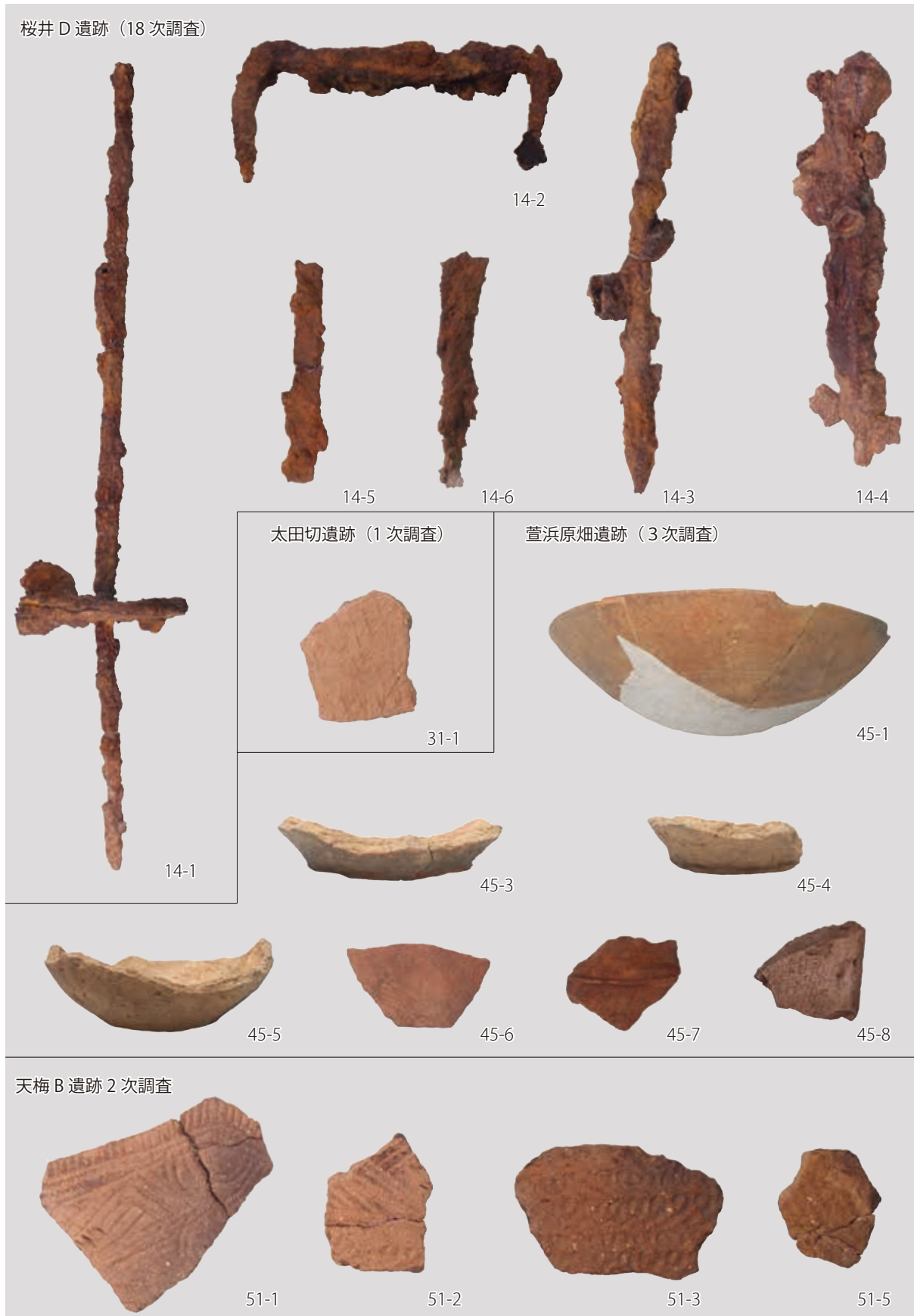


写真 94 出土遺物写真 2

表2 出土遺物観察表

図表 番号	図内 番号	遺跡名 (調査名)	遺構	出土位置	器種	口径	底径	器高	残存 率	外面	内面	底部	備考
12	1	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	P22 底面	土師器環	15.2	8.0	4.9	20%	口：ロクロナデ 体部：上部 ロクロナデ、下部回転ヘラケ ズリ	ミガキ 黒色処理	回転ヘラケズリ	
12	2	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	P22 ℓ 1	土師器環	13.6	9.0	2.7	30%	口：横ナデ 体：上部ロクロ ナデ、下部回転ヘラケズリ	ミガキ 黒色処理	回転糸切り後外周回 転ヘラケズリ	
12	3	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	床面	土師器環		7.2		40%	ロクロナデ	ミガキ 黒色処理	回転糸切り後外周回 転ヘラケズリ	
12	4	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	床面、 覆土	土師器環	13.6	8.0	4.8	70%	口：ミガキ 黒色処理 体： ヘラケズリ	ミガキ 黒色処理	回転糸切り後ヘラケ ズリ	
12	5	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	床面・ 覆土	土師器環	15.2	7.4	3.3	40%	口：横ナデ 体：上部ナデ、 下部ヘラケズリ	ミガキ 黒色処理	ヘラケズリ	
12	6	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	P6	土師器環	10.4			25%	口：ミガキ 体：上部ミガキ、 下部ヘラケズリ 黒色処理	ミガキ 黒色処理	ヘラケズリ	
12	7	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	貼床	土師器甕					ヘラケズリ・焼成前沈線	ナデ・輪積痕		
12	8	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	覆土	土師器甕	17.4			25%	口：横ナデ 体：ヘラケズリ	口：横ナデ 体：ヘ ラケズリ		
12	9	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	覆土	土師器環	11.6	6.0	3.7	30%	口：ミガキ 黒色処理 体： 上部ミガキ、下部ヘラケズリ	ミガキ 黒色処理	ヘラケズリ	
12	10	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	覆土下層	土師器環			9.4	25%	体：上部ロクロナデ、下部ヘ ラケズリ	ミガキ 黒色処理	回転糸切り後外周回 転ヘラケズリ	
12	11	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	覆土上層	土師器環			7.8	100%	体：上部ロクロナデ、下部回 転ヘラケズリ	ミガキ 黒色処理	回転ヘラケズリ	
12	12	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	覆土	土師器環			9.2	60%	ロクロナデ	ミガキ 黒色処理	回転ヘラケズリ	
12	13	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	覆土中層	土師器甕		8.6		40%	ヘラケズリ	ナデ	ヘラケズリ	
12	14	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	覆土中層	土師器環					ロクロナデ	ミガキ 黒色処理	ナデ・ミガキ	
12	15	桜井 D 遺跡 18 次	SI1・ 確認面	覆土	土師器甕		8.4		25%	ヘラケズリ	ナデ	ナデ	
12	16	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	覆土上層	土師器蓋					ミガキ 黒色処理	ミガキ 黒色処理		
12	17	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	覆土	土師器環					回転ヘラケズリ	ミガキ 黒色処理	回転ヘラケズリ	墨書
12	18	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	覆土上層	土師器環		5.6			回転ヘラケズリ	ミガキ 黒色処理	回転ヘラケズリ	墨書 (千万)
12	19	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	覆土	須恵器環		8.8		25%	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ後ナ デ	
13	1	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	貼床下、周 溝	土師器環	10.6	5.8	3.2	100%	口：横ナデ 体：上部ロクロ ナデ、下部回転ヘラケズリ	ミガキ 黒色処理	回転ヘラケズリ後一 部ミガキ	
13	2	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	P33	土師器甕	16.9			25%	口：横ナデ 体：ヘラケズリ	口：横ナデ 体：ヘ ラケズリ・輪積痕		
13	3	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	P33	土師器甕	12.8			25%	口：横ナデ 体：指ナデ・輪 積痕	口：横ナデ 体：ヘ ラケズリ・ナデ・輪 積痕		
13	4	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	P33	土師器甕		10.6		40%	ヘラケズリ	ナデ	ヘラケズリ後ナデ	
13	5	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	P33	土師器甕		8.8		25%	ヘラケズリ	ナデ	ヘラケズリ	
13	6	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	貼床下	須恵器甕					ロクロナデ	ロクロナデ		
13	7	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	P31	須恵器甕					タタキ	当て具痕		
13	8	桜井 D 遺跡 18 次	SI1	貼床下	土師器甕			13.0	25%	ヘラケズリ	ヘラナデ	ナデ	
13	9	桜井 D 遺跡 18 次	確認面		土師器環		6.0		50%	体：上部ロクロナデ、下部ヘ ラケズリ	ミガキ 黒色処理	ヘラケズリ	
13	10	桜井 D 遺跡 18 次	確認面		土師器環					口：横ナデ 体：ヘラケズリ	ミガキ 黒色処理		
13	11	桜井 D 遺跡 18 次	確認面		須恵器甕		7.6		25%	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
13	12	桜井 D 遺跡 18 次	確認面		土師器環							回転糸切り後ヘラケ ズリ	墨書
13	13	桜井 D 遺跡 18 次	確認面		土師器環					ロクロナデ	ミガキ 黒色処理		墨書
17	1	天塚 A 遺跡 1 次	9T	L I	須恵器甕					タタキ	当て具痕		
31	1	太田切遺跡 1 次	6T	L I	縄文土器深鉢					網目状襷系文	ナデ		縄文晩期
45	1	菅浜原畑遺跡 3 次	7T	L I ~ III	土師器環	15			60%	口：横ナデ 体：ヘラケズリ	ミガキ 黒色処理？		
45	2	菅浜原畑遺跡 3 次	7T	L I ~ II	土師器高環				50%	ヘラケズリ	ミガキ		
45	3	菅浜原畑遺跡 3 次	7T	L I ~ II	土師器甕	5.4			75%	ヘラケズリ	ナデ	木葉痕	
45	4	菅浜原畑遺跡 3 次	7T	L I ~ II	土師器甕	7			30%	ヘラケズリ	ナデ	木葉痕	
45	5	菅浜原畑遺跡 3 次	7T	L I ~ III	土師器壺	5			100%	ヘラケズリ	ナデ	ヘラケズリ、ヘラナ デ	
45	6	菅浜原畑遺跡 3 次	9T	L I ~ II	弥生土器壺					0 段多糸 (L 3r)	ナデ		
45	7	菅浜原畑遺跡 3 次	7T	L I ~ III	土師器鉢					口：横ナデ 頸：ナデ 体： ヘラケズリ	ナデ		
51	1	天梅 B 遺跡 2 次	21T	L III	縄文土器深鉢					口：縦位沈線列 体：縄圧痕 文・斜位沈線	ナデ		
51	2	天梅 B 遺跡 2 次	21T	L III	縄文土器深鉢					体：上部斜位沈線・縄圧痕文、 下部ループ文	ナデ		縦維 同一個体
51	3	天梅 B 遺跡 2 次	21T	L III	縄文土器深鉢					羽状ループ文	ナデ		
51	4	天梅 B 遺跡 2 次	21T	L III	縄文土器深鉢					羽状ループ文	ナデ		
51	5	天梅 B 遺跡 2 次	12TSK3		縄文土器深鉢					LR 縄文	ナデ		縦維
55	1	台遺跡 2 次	13TS11	ℓ 3	赤焼土器皿	10.4	4.8	1.1	40%	ヘラケズリ・ロクロナデ	ナデ	回転糸切り	
55	2	台遺跡 2 次	13TS11	ℓ 3	赤焼土器皿		5.2			ロクロナデ	ナデ	回転糸切り	

報告書抄録

ふりがな	みなみそうましないいせきはつつちょうさほうこくしょ 15						
書名	南相馬市内遺跡発掘調査報告書 15						
副書名	令和2年度試掘調査報告						
シリーズ名	南相馬市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第39集						
編著者名	佐川久・濱須 脩・川田強						
編集機関	福島県南相馬市教育委員会文化財課						
所在地	〒975-0062 福島県南相馬市原町区本陣前一丁目70 TEL 0244-24-5284						
発行年月日	西暦2022(令和4年)3月31日						
所収遺跡	所在地	コ ー ド 市 町 村 遺 跡 番 号	北 東 緯 経	調 査 期 間		面 積 (m ²)	調 査 原 因
				上 段 : 着 手	下 段 : 完 了		
桜井D遺跡 18次調査	南相馬市原町区 上渋佐字原田	212500175	37°38'19" 140°59'39"	20201022 20201130		74.9	個人住宅建設
犬塚A遺跡 1～3次調査	南相馬市小高区 大富字犬塚	212200461	37°33'56" 140°56'01"	20200427 20200928		153.7	土砂採取
池ノ沢遺跡 4次調査	南相馬市小高区 神山字池ノ沢	212500628	37°31'15" 140°58'14"	20200508 20200513		42.8	土砂採取
白幡前遺跡 2次調査	南相馬市小高区 大井字上山畑	212500633	37°34'17" 140°00'28"	20200525		22	個人住宅建設
槽内遺跡 1次調査	南相馬市小高区 上根沢字槽内	212500630	37°32'42" 140°55'45"	20200602		12	太陽光発電 設備設置
小高城跡 6次調査	南相馬市小高区 小高字金谷前	212500460	37°34'09" 140°59'31"	20200615 20200616		40	太陽光発電 設備設置
上渋佐原田遺跡 6次調査	南相馬市原町区 上渋佐字原田	212500348	37°38'11" 140°59'55"	20200618 20200622		96	集合住宅建設
太田切遺跡 1次調査	南相馬市小高区 大富字熊平	212500583	37°34'07" 140°56'42"	20200623 20200624		120	太陽光発電 設備設置
池ノ沢遺跡 5次調査	南相馬市小高区 神山字池ノ沢	212500628	37°31'13" 140°58'15"	20200713 20200731		76.1	土砂採取
大井花輪遺跡 1次調査	南相馬市小高区 大井字松崎	212500520	37°34'03" 141°00'29"	20200803		23.6	個人住宅建設
池ノ沢遺跡 6次調査	南相馬市小高区 神山字池ノ沢	212500628	37°31'14" 140°58'10"	20200804 20200813		65.15	土砂採取
萱浜原畑遺跡 3次調査	南相馬市原町区 萱浜字原畑	212500353	37°37'56" 141°00'10"	20200929 20201016		79.5	事務所建設
天梅B遺跡 2次調査	南相馬市小高区 金谷字天梅	212500741	37°33'13" 140°55'50"	20201207 20210201		400.5	土砂採取
台遺跡 2次調査	南相馬市小高区 小谷字台	212500607	37°33'55" 140°57'47"	20210128 20210224		360	農地造成
野馬土手 中太田地区	南相馬市原町区 中太田字天狗田	212500291	37°37'08" 140°57'23"	20210106 20210107		80	商業施設建設
橋本町A遺跡 2次調査	南相馬市原町区 橋本町	212500180	37°38'01" 140°57'47"	20210115		12	寄宿舎建設

陣ヶ崎 A 遺跡 3 次調査	南相馬市原町区 大木戸字南原	212500194	37° 36' 51" 140° 56' 12"	20210226	21.7	個人住宅建設
南柚木字仲平後 地区	南相馬市鹿島区 南柚木字仲平後		37° 43' 36" 140° 58' 30"	20200422 20200423	29.9	太陽光発電 設備設置
泉字町池地区	南相馬市原町区 泉字町池		37° 39' 01" 141° 00' 15"	20210113 20210114	6	歩道新設
所収遺跡	種 別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項
桜井 D 遺跡 18 次調査	散布地	弥生・古墳・奈良・平安		—	弥生土器・ 土師器	
犬塚 A 遺跡 1～3 次調査	散布地	縄文・古墳・奈良・平安		—	縄文土器・ 土師器・石 斧・石匙	
池ノ沢遺跡 4 次調査	製鉄跡	奈良・平安		廃滓場	羽口・炉壁・ 鉄滓	
白幡前遺跡 2 次調査	散布地	縄文・古墳		—	縄文土器・ 土師器	
糟内遺跡 1 次調査	散布地	古墳・奈良・平安		—	土師器・須 恵器	
小高城跡 6 次調査	城館跡	中世・近世		郭・土 塁・ 壕跡	—	
上渋佐原田遺跡 6 次調査	散布地	弥生・古墳・平安		—	土師器・須 恵器・刀子	
太田切遺跡 1 次調査	窯跡・散布地	奈良・平安		木炭窯跡・ 土坑・溝跡	土師器・須 恵器	
池ノ沢遺跡 5 次調査	製鉄跡	奈良・平安		廃滓場	羽口・炉壁・ 鉄滓	
大井花輪遺跡 1 次調査	城館跡	中世・近世		—	—	
池ノ沢遺跡 6 次調査	製鉄跡	奈良・平安		廃滓場	羽口・炉壁・ 鉄滓	
萱浜原畑遺跡 3 次調査	散布地	弥生・古墳・奈良・平安		—	弥生土器・ 土師器・須 恵器	
天梅 B 遺跡 2 次調査	散布地・集落跡	奈良・平安		堅穴住居跡・ 土坑・木炭 窯跡	縄文土器	
台遺跡 2 次調査	散布地	古墳・奈良・平安		—	土師器・須 恵器	
野馬土手 中太田地区	その他	近世		土手・堀	—	
橋本町 A 遺跡 2 次調査	散布地	—		—	旧石器	
陣ヶ崎 A 遺跡 3 次調査	散布地	縄文		—	旧石器・打 製石	
南柚木字仲平後 地区	—	—		—	—	
泉字町池地区	—	—		—	—	

印刷 2022年 3月31日

発行 2022年 3月31日

南相馬市埋蔵文化財調査報告書第 39 集

南相馬市内遺跡発掘調査報告書 15

—令和 2 年度本発掘調査・試掘調査—

編集 南相馬市教育委員会 文化財課

発行 南相馬市教育委員会

〒 975 - 0062 福島県南相馬市原町区本陣前一丁目 70 番地

印刷 有限会社 愛原印刷所

〒 975 - 0003 福島県南相馬市原町区栄町一丁目 8 番地
